

2019

近畿双松会報

— 2019(平成31・令和元)年度 —

島根県立松江中学校

島根県立松江高等学校

島根県立松江北高等学校



西川津校舎跡地の碑

西川津校舎時代は1950(昭和25)年10月から1978(昭和53)年3月の赤山復帰までの27年半にわたり、卒業生数は1万3千余人にのぼる。その跡地には定礎(昭和54年2月)、校舎玄関前にあった「質実剛健」の碑、ならびに佐藤春夫の詩の一節「若かりし日のわが夢ぞ そくに狭霧ろふ」を彫り込んだ跡地記念碑が建立され、栄光の歴史を留めている。



(注1)所在地は、くにびき大橋を北上して松江市総合体育館の向かい。「北公園南交差点」の北西角の駐車場地内。

(注2)「質実剛健」の碑は1966(昭和42)年の創立90周年を記念し、旧制松江中学校長の西村房太郎先生に揮毫をいただいたもの。

(注3)跡地記念碑の文字は移転時の校長、前川多助先生の揮毫によるもので、裏面には松江高校校長の兼折博先生の文になる建立趣旨が刻まれている。

あさひたださす (赤山健児の歌)

西村房太郎 作詞

岩佐万次郎 作曲



あーさひ たださす そうしょう の
てんらい むーねに ひかりあ り
なーみに く だく る みかづき の
かーげに こゆうの しんを み る
てんちの せ いをー みに し み て
せいきを のーぶ る いちひやくね ん

一、

朝あさひ暎直刺す双松の 天籟胸に光あり
浪に砕くる三日月の 影に古雄の真をみる
天地の精を身にしめて 正気を舒ぶる壹百年

二、

瘴煙罩こむる椰子の下 月に嘯く夕あり
冰雪鎖す丘の上 北斗に吟ずる晨あり
万里の風に浪搏ちて 大鵬の翼揮へよや

三、

嗚呼剛健と質実と 心の楯に執り持てば
惡魔サタンの征矢も身にたたず 高く攀かかぐる我旗の
靈光迷路メイズの闇を射て 理想の郷をてらすなり

四、

稜威輝く日の本の 国の礎さし固め
東洋平和を保つべき 使命を負へる我等なり
責務は重く身は軽し 起てや赤山健男児

さんみゃくうかびて (松江高・松江北高等学校校歌)

土岐善麿 作詞

高田三郎 作曲

さわやかに ♩ = 100

mf

さん みゃくうかーび てはん とうみどりに さ

ざなみかがー やくみず のみやこ よ

mp

しんりのひか り を もとめゆくと き

mf *f*

ちせいのそ ら は た かくひろ く あ

おげばたー だ し いずもふ じ

一、

山脈浮かびて 半島みどりに
さざなみかがやく 水の都よ
真理のひかりを 求めゆくとき
知性の空は 高くひろく
仰げば正し 出雲富士

二、

郷土の歴史を 深くもたたへて
川風すがしく 渡す大橋
千鳥の城あと 街はさかえて
希望も新た かくて常に
自由の道を 進むべし

三、

健康ひとしく いそしみはげみて
世界の人たる 誇りにたたん
友情かわらず 胸をひらきて
こぞれりわれら 若く強く
松江北高 ここにあり



2019(平成31・令和元)年度 近畿双松会報

目 次

あさひたださす (赤山健児の歌)	2
さんみゃくうかびて (松江高等学校・松江北高等学校校歌)	3
2019(令和元)年度 近畿双松会「総会 講演会 懇親会」次第	5
2019(平成31・令和元)年度 近畿双松会「役員会」「総会・講演会・懇親会」報告	6
2019(令和元)年度「総会・講演会・懇親会」出席者名簿	12
総会議事(1) 近畿双松会 活動事業報告	16
総会議事(2) 近畿双松会 会計・監査報告	17
総会議事(3) 2019(令和元)年度 近畿双松会役員	18
ご挨拶	
近畿双松会会長 松本 耕司(16)	19
双松会会長 金津 任紀(16)	20
松江北高等学校校長 常松 徹	21
2019(平成31・令和元)年度 松江北高校十大ニュース	22
期別テーブル写真／スナップ写真	24
講演	
「スポーツと郷土を愛した男 岸 清一」 講師：若槻 喜保氏(11)	30
2019(令和元)年度 「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名	38
追悼 物故会員	40
近畿双松会 SNS登録、メールマガジン・LINE@受信のお願い	41
2019(平成31・令和元)年度 諸行事報告(骨子)	42
■第11回 落語鑑賞会 ■第4回 北高野球部大阪遠征試合の応援 ■第43回 ゴルフコンペ ■第14回 文楽鑑賞会 ■第13回 歴史ウォーキング ■第9回「里山歩くぞ!」ハイキング ■2020(令和2)年度 有志新年懇親会 ■第3回「宝塚歌劇鑑賞会」 ■2020(令和2)年度 役員会	
同期会便り	48
■16期(S40卒)近畿同期会 ■22(理1)期(S46卒)関西同窓会有志「春の集い」■23(理2)期 (S47卒)関西地区同窓会／学年全体同窓会／折にふれてミニ同窓会 ①奈良ハイキング ②京都 「洛趣会」相国寺 ■26(理5)期(S50卒)近畿同期会 ■31(理10)期(S55卒)北高@関西	
会員近況報告	52
自由投稿	
「県民の森・大万木山へいらっしゃい」 佐和田 丸(10)	59
「松江にもっと頑張って欲しいなあ」 松本 耕司(16)	60
編集後記	62

2019(令和元)年度 近畿双松会「総会 講演会 懇親会」次第

2019年11月24日(日) 午前11時半～午後4時(受付開始:午前11時)
於:中央電気倶楽部 5Fホール

※()内は高校卒業期

◆第一部「令和元年度総会」(11:30～12:00) 司会:大浦綾子 常任幹事(高22)

1. 開会の辞:
2. 物故者黙祷:
3. ご挨拶: 近畿双松会 松本耕司会長(高16)
4. 来賓ご挨拶: 双松会 金津任紀会長(高16)
島根県立松江北高等学校 常松 徹校長
5. 議長の選任:
6. 議事: (1)活動報告(スライド): ※スライド制作:押田良樹常任顧問(高11)
(2)会計報告: ※監査報告:鶴羽孝子監事(高22)
(3)役員の異動:
7. 閉会の辞:

◆第二部「講演会」(12:00～13:00) 講師紹介:松本会長

【演題】: 「スポーツと郷土を愛した男 岸 清一(旧松中4期)」

【講師】: 若槻喜保 様 (高11期、津田街道未来塾幹事長)

(講師紹介) 松江一中卒、島根大学教育学部卒、松江市内の各教職を経て城北小学校校長。
退職後、雑賀の魅力の発見、まちづくりや活性化、岸清一の生涯・功績の顕彰活動などに参画。
⇒詳細ご紹介別紙

<休憩(10分)>

◆第三部「懇親会」(13:10～16:00) 司会:松村聡常任幹事・周藤達夫幹事(高26)

1. 開会の辞:
2. ご来賓・講師紹介:
金津任紀様(双松会会長) 金平 憲様(同、幹事長)
常松 徹様(松江北高校校長) 堀江玲美様(高62/松江北高校教諭・双松会校内幹事)
小林忠夫様(公演、下記) 若槻喜保様(講師、上記)
糸川孝一様(高31/東京双松会事務局長) 門脇 孝様(高36/島根県大阪事務所副所長)
伊藤征治様(近畿松江会顧問) 木村恵吉様(同、副会長) 竹谷 奨様(同、幹事長)
3. 乾杯: (音頭)双松会 金平 憲 幹事長(高16)
4. 公演: 「懐かしの出雲弁トーク“出雲弁なんぞかんぞ”」 紹介 坂本隆男様(高9)
・演者:小林忠夫様(高9期・松江出雲弁保存会会長) ⇒詳細ご紹介別紙
5. 会食・懇親:
<スピーチ> ①近畿松江会 伊藤征治顧問
②長谷川浩之幹事(高38/白潟天満宮遷宮奉賛について)
<百人一首朗詠> 堀江玲美教諭(高62)
<アンコール> 小林忠夫様(高9) 出雲弁バージョン山口百恵“プレイバックpart2”独唱
6. 校歌斉唱(全曲): ※赤山健児の歌 ※山脈浮かびて
7. 万歳三唱: (発声)加藤巡一常任幹事ほか高14期の皆様
8. 全員記念写真撮影:
9. 閉会の辞:

<全終了(解散):16時>



■ 2019(平成31)年度 「役員会」報告

- ・日時／平成31年2月2日(土) 11時～
- ・会場／中央電気倶楽部

会則第8条に則り、平成最後の役員会を開催し、2018年度の事業、収支状況の報告、2019年度の事業方針について意見交換をいたしました。

設立60周年記念の総会が125名の参加を得て盛大に終了したことを喜びあいながらも、50周年・55周年に比べれば大きく減少している事実、すなわち中堅・若手年代の絶対的人員減の状況に今後どう対応していくかが大きな課題であることを確認しました。

その結果、本年度を“新しい時代の始まり”その1年目！として「次代への移行期の始まり」と位置づけ、中堅・若手世代対策として、「SNSの活用、総会参加費の負担減など」について、積極的に事務局会議で検討をすすめていくことが了承されました。

役員一同、心も新たに今後に対応することを誓い、それぞれ新年の抱負を語り合って懇親を深めました。

◆参加役員は下記の23名。(敬称略)

[常任顧問] 山本雅昭(7)押田良樹(11) [会長] 松本耕司(16) [副会長] 梅木隆志(16)三好資子(20) [監事] 物種慶子(20)鶴羽孝子(22) [常任幹事] 金坂喜好(15)土田和男(16)岡久夫(17)小田一美(18)岩田一志(19)大浦綾子(22)松本潤(23)宍道弘志(31)富岡幸子(35) [幹事] 堀江眞三人(2)面白紘(10)池田喜美代(19)松本幸子・山口紀子(23)徳田完二(24)周藤達夫(26)

■ 2019(令和元)年度 「総会・講演会・懇親会」報告

- ・日時／令和元年11月24日(日) 11時半～ 16時
- ・会場／中央電気倶楽部 5Fホール

当日は雨の予報に反して好天に恵まれ、運営を担当する皆さんには9時半に集合いただきました。

昨年の60周年記念総会の「125名」には及びませんでしたが、ご来賓を含め100名の大会を突破する「101」名のご参加をいただき、まずは胸をなでおろしました。(参加者名簿は別掲)

なお、本総会より、かねて検討をすすめてきた中堅・若手年代の皆さんの参加増をめざす対策として、「初参加者ならびに40歳未満の参加者は、総会参加費を半額とする」運用を試験的に開始いたしました。

(1)第一部：2019(令和元)年度「総会」

(「式次第」・「物故者名簿」は別掲)

総会は大浦綾子常任幹事(22)の司会で始まり、物故者黙祷に続き、松本耕司会長(16)、双松会金津紀会長(16)、4月に新しく校長としてご着任された松江北高校常松徹校長の「ご挨拶」がありました。



松本会長からは、当会を将来に継続していくために従来の郵便による連絡方法に加え、「SNSによる発信も開始する」ことが報告されました。

(それぞれのご挨拶の詳細は別掲)

その後、松本会長が議長となって「議事」に入り、活動報告がスライドショーにより紹介されたあと、会計報告と鶴羽孝子監事(22)の監査報告、最後に役員の選任の報告がなされ、それぞれ満場一致で承認されました。

役員の専任では、松本潤常任幹事(23)が副会長に再任されました。

(議事資料は別掲)

(2)第二部：「講演会」

「スポーツと郷土を愛した男 岸 清一」

講師：若槻喜保様(高11期)

第二部の講演は、松本会長から、NHK大河ドラマ「いだてん」に登場した郷土の偉人、母校の大先輩、岸清一(旧中4期)の業績を、我々後輩としてももう一度心に刻んでおきたいと考え、松江在住の方でご講演いただける方を探し求めたことのご報告から始まりました。

そして、多くの方々から若槻喜保様(11)をご推薦いただき、同窓の誼もあってご快諾をいただいて本日のご来阪の運びになったとのご紹介がありました。

若槻様は、城北小学校校長を退職されるまで長く島根、松江の教育界で活躍され、雑賀町にお住まいのところから雑賀町、津田海道の振興、そして岸清一の顕彰活動に長く携わっておられ、ご講演では、「岸清一愛」に溢れた熱いお話をいただきました。

(講演のレジメは別掲)

なお、講演冒頭で、若槻様から別掲のレジメ以外の出来事として、我々が長く親しんできたスポーツの総本山、代々木の「岸記念体育会館」が建物・設備の老朽化や狭隘化が進んだことから建て替えられることになり、名称保存が危ぶまれていたというお話がありました。しかし、熱心に陳情を続けた結

果、令和元年5月、新宿区霞ヶ丘にできた「ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア」の最上階の大会議室が「岸清一メモリアルホール」と名付けられることになり、ご遺族とともに涙を流して喜んだというエピソードをご紹介いただきました。

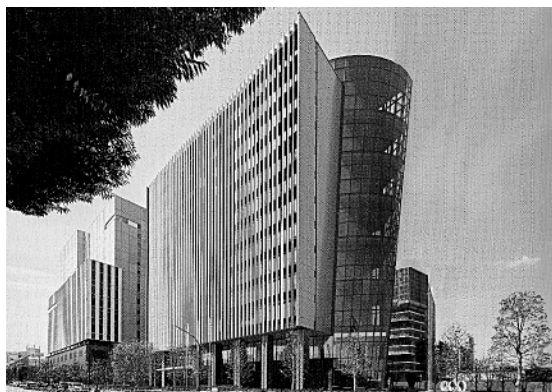
さらに、若槻様は講演の最後では、岸清一の強い「郷土愛」を強調され、ご自分の話で「岸先生のことをお分かりいただけたでしょうか？」と問われ、さらに、「メモリアルホールを訪ねてみてください」、「県庁前の銅像を撫でてあげてください」と、再び熱い「岸清一愛」に溢れた言葉で呼びかけられ、大きな拍手が湧きました。

講演の詳細なレジメをいただきましたので、若槻様のプロフィールとともに別掲させていただきます。是非ご一読ください。

若槻様には心より御礼を申し上げる次第です。

(編集注)「岸記念体育会館」は、1941(昭16)年、大日本体育協会(後、日本体育協会、現(公財)日本スポーツ協会)の第二代会長・岸清一の遺言による多額の寄付でお茶の水に建設。次いで1964(昭39)年、東京オリンピックに合わせ代々木に移転・建設された。この間、協会ははじめ各競技団体が本部を置き、日本スポーツ界の総本山とも称され、岸の貢献が記念されてきた。

2019(令1)年の建て替えによる新会館は、新国立競技場の隣接地に建てられ、名称から岸の名は外れたが、胸像を入口付近に置き、館内に「メモリアルホール」を設けて岸の業績を後世に伝える。



ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア
(最上階に「岸清一メモリアルホール」)

(3)第三部：「懇親会」

第三部の懇親会は、松村聡常任幹事と周藤達夫幹事のフレッシュな26期コンビの司会で、ご来賓・ゲスト(別掲)をご紹介します、皆の拍手でお迎えをして始まりました。

◆乾杯：双松会 金平憲 幹事長(16)

「乾杯」の音頭は双松会金平憲 幹事長(16)にお願いし、金平様からは、5月にホーランエンヤの神輿船の船長を勤めたというめでたいお話をご披露いただき、一同声高らかに杯を挙げて懇親会をスタートしました。



◆公演：懐かしの出雲弁トーク

「出雲弁なんぞかんぞ」 小林忠夫氏(高9期)

乾杯のあと、同期の坂本隆男さん(9)から小林様のご紹介をいただきました。

小林様は同期の代表的名物男で9期全体のまとめ役、この3月には松江でこれが最後かと言われる傘寿同期会を仕切られたばかり、高校時代は青竹を持ったこわもての応援団だったが今や好々爺として「方言と言う文化」のリーダーとして活躍しておられる。今日は自分もトークを聴いて、松江の文化にどっぷりつかりたい、とのご紹介がありました。



小林さんをご紹介の
坂本隆男さん(9)

「出雲弁保存会」は出雲弁の継承・活用をすすめる団体会長は藤岡大拙氏、各地で活動がすすめられているが、平成29年、「松江の中心部にも組織が必要」として「松江・出雲弁保存会」が発足し、小林様が会長となられたもの。

小林様の軽妙なトークは、出雲弁のなまりとアクセントと語尾の独特な雰囲気になつかしく思い出させていただき、しかも松江らしい上品さも感じて、笑い一杯の楽しいひと時となりました。紙面で再現することは困難ですので、皆さんも直接お聴きする機会があれば、逃がされないようにされることをおすすめいたします。



なお、小林様によれば出雲弁の特徴は三つで、①ズーズー弁である。②昔の古い言葉を未だにつかっている。③絶えず相手の気持ちを尊重し考えながら話すので争いのあまりおきない言葉である、とのことでした。

出雲弁には一つの表現にも多数の語彙がある親切さも特徴で、それがあらぬか、出雲人は「やらぬ世話もしがちでもある」とのお話も記憶に残りました。

小林様には心より御礼を申し上げる次第です。また、お酒も入っていささか会場が賑やかであったこと、お詫び申し上げます。

＜小林様プロフィール＞

昭和14年生、昭和33年松江高校卒業、50年間紳士服関係に携わる。松江青年会議所副理事長、松江ライオンズクラブ会長、株式会社 博愛社社長などの他、NHK松江放送局番組審議委員、松江市教育委員会非常勤講師、島根県生涯学習センター講師を務める。

また、映画『島根の弁護士』方言指導、NHK衛星放送『マンガのゲンバ』方言指導、『だんだん考談』-藤岡大拙氏(出雲弁保存会会長)との共著、文部省主催「国民文化祭全国方言大会」(大分開催)島根県代表、山陰放送『ほんわかサイト』レギュラー出演など。

現在、出雲弁保存会島根県連絡会副会長、松江・出雲弁保存会会長。嫁島町在住

懐かしい出雲弁の公演のあと、本格的に食事と歓談の時間となり、あちらこちらで懇親を深める笑い声が絶えない時間を過ごしました。

◆スピーチ：近畿松江会 伊藤征治顧問

やがて、スピーチの時間となり、今回はご来賓で、松江のふるさと会である「近畿松江会」の伊藤征治顧問（前会長）にお願いしました。



ご来賓の伊藤征治近畿松江会顧問

伊藤様からは、平成の市町村大合併の際に発足した近畿松江会もまもなく15年目を迎えるが、その設立には近畿双松会の大先輩の方々が深く関わっておられ、以来、今日まで強い友誼・協力関係のもとに、松江会を支えていただいていると、謝意をいただきました。

また、島根県の人口の減少、近畿への流入人口の減少などで、ふるさと会の運営も年々むづかしくなっているが、自分も三代目の会長として三期6年を勤めて80歳を超えたので、この5月、貴会の松本会長に四代目の松江会会長をお願いし、お受けいただいたとのご紹介をされた。

さらに、近畿松江会にとって貴会はなくしてはならない中心的存在の一つなので、松本会長だけでなく多くの皆様のご参加、応援をいただきたいと考えているので、今後とも引き続きよろしくお願ひしたいとの、スピーチを頂戴いたしました。

伊藤様、有難うございました。こちらこそ、よろしくお願ひいたします。

◆百人一首朗詠：堀江玲美教諭（62）

その後、ご来賓の双松会校内幹事の堀江先生が、「百人一首かるた部」の顧問でいらっしゃることから、会場からのリクエストに応じて、数首、朗詠をいただきました。

ご無理なお願いにも関わらずご快諾いただき、響き渡る美声で会場を引き締めていただきましたが、百人一首朗詠は令和初の懇親の場には真にふさわしく、華やかに祝っていただきました。

堀江先生、有難うございました。



◆「白潟天満宮」御遷宮事業の紹介と奉賛協力の呼び掛け：長谷川浩之幹事（38）

幹事の長谷川さん（38）のご実家は、松江市民になじみの深い白潟の「天神さん」ですが、社殿、参道等の老朽・損傷が著しく、早急な修復を迫られているとのことです。

氏子を持たない神社であることから、現在、広く市民の方々から浄財を募っているとのことで、長谷川さんから事業の紹介と奉賛協力の呼びかけをいただきました。（総事業費：概算9千万円）

ご関心をいただける場合は、下記で確認、またお問い合わせをいただければ幸いです。



長谷川浩之幹事（38）

白潟天満宮社務所：

〒690-0064 松江市天神町59

電話 0852-21-1203 FAX 0852-24-4037

⇒ <https://shirakatatenmangu.com/sengu/>

直接、長谷川さん宛にメールをいただくのも歓迎とのことです。

⇒ matueshirakata@gmail.com

◆アンコール：

出雲弁で山口百恵の「プレイバック part2」独唱
小林忠夫氏(高9)

最後に、会場から小林様に噂のあの歌を聴きたいという強いリクエストがあり、再び登壇いただいて、アカペラで出雲弁バージョンの「プレイバック part2」を歌っていただきました。



会場は山口百恵を思い出しながら、再び爆笑に包まれました。これも紙面には掲載できず、残念です。

◆校歌斉唱

こうして、あっという間に時間が経ってにぎやかにお開きに向かい、多くの方に登壇いただき、校歌二曲「赤山健児の歌 朝日直さす」と「山脈浮かびて」を大合唱しました。

年に一度の大合唱は、北高の卒業式や松江を思い出し、いつものことながら、まさに至福のひと時を感じる瞬間でした。

唯一の旧制松江中学入学の堀江眞三人さん(2)が演壇中央で力強く「朝日直さす」を歌っていただきましたのも嬉しい出来事でした。

◆万歳三唱

そのあと「万歳三唱」となり、今年は14期の順番で、加藤巡一常任幹事の代表発声により、近畿双松会のますますの発展と、参加者のご多幸を願って、皆で声高らかに万歳を三唱しました。



加藤巡一常任幹事と14期の皆さん

◆全員集合記念写真撮影

最後に残った大仕事は、吉例となった全員集合の記念写真ですが、年々、皆さんの集合も整列も水際だってきて、あっという間に終わりました。ちゃんと撮れたのかな？(P29に掲載)

皆さんの顔は見えますか。



校歌斉唱

◆会場外での「書籍販売」

会場外の受付横では、恒例となった高橋一清さんが編集統括される松江の情報誌「湖都松江」に加え、今年は「出雲弁保存会」からの下記二点、計三点を販売普及させていただきました。

皆様のご協力と書籍販売をご担当いただいた皆さんに厚く御礼申し上げます。

- ・『湖都松江38号』
- ・『出雲弁見立て番付』
- ・『お店の人と出雲弁で話してみましょう(居酒屋編)小冊子<日・英・独・仏語対応>』

以上、総会・講演会・懇親会は無事に予定を終了し、それぞれ期別に思い思いに大阪の街に繰り出され、次回の再会を約してすべてがお開きとなりました。

皆様のご協力で厚く御礼申し上げます。

■実務をご担当いただいた皆さんを下記に紹介し、御礼に代えます。(敬称略)

- 総括：松本耕司(16)〈補佐〉松本潤(23)
- 第一部司会：大浦綾子(22)〈補佐〉廣瀬弘美(29)
- スライド制作：押田良樹(11)
- 監査報告：鶴羽孝子(22)
- 第二部司会：松本耕〈補佐〉新宮富美子(27)
- 第三部司会：松村聡(26理5)・周藤達夫(26)〈補佐〉新宮・廣瀬
- 受付・会計：池田喜美代(19)・山崎麻里子(20)・大浦・鶴羽・新宮・松田稚子(27)・廣瀬・富岡幸子(35)
- 出席者出迎え：押田・松本耕・梅木隆志(16)・三好資子(20)・松本潤
- 会場設営・案内：統括：梅木・岡久夫(17)・小田一美(18)・石賀誠一郎(18)・岩田一志(19)・小敷賀健二(20)
- 映像音響・録音・照明：宍道弘志(31)・徳田完二(24)・浅沼吉正(32)
- 演壇担当：長谷川浩之(38)〈補佐〉松村・周藤
- カメラ：統括：土田和男(16)村田貢(22)・徳田・浅沼・長谷川
- 書籍販売：木山洋子(22)河村敦子(24)



2019(令和元)年度「総会・講演会・懇親会」出席者名簿

ご来賓・講師

	卒業期	卒業年	氏名	所属等	テーブル	参加
1	高16	S40	金 津 任 紀	双松会会長(加賀小・加賀中)	B⇒G	
2	高16	S40	金 平 憲	双松会幹事長(母衣小・附属中)	B⇒G	
3			常 松 徹	松江北高校校長	B	初
4	高62	H23	堀 江 玲 美	松江北高校教諭・双松会校内幹事	B	
5	高9	S33	小 林 忠 夫	公演(松江出雲弁保存会会長)	B⇒C	初
6	高11	S35	若 槻 喜 保	講師(津田街道未来塾幹事長)	B⇒D	初
7	高31	S55	糸 川 孝 一	東京双松会事務局長(大津小・益田東中・コーラス)	B⇒K	
8	高36	S60	門 脇 孝	島根県大阪事務所副所長	B⇒N	初
9	(松江商業)		伊 藤 征 治	近畿松江会顧問(北堀小・松江一)	C	
10	(松江商業)		木 村 恵 吉	近畿松江会副会長(雑賀小・松江四・バドミントン)	C	初
11	(松江高専)		竹 谷 奨	近畿松江会幹事長(八束小・八束中)	C	

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル	参加
12	高2	S26	堀 江 眞 三 人		北堀小	旧松中	新聞部	A	
13	高5	S29	寺 本 尚 由		朝日小	松江三	陸上部	A	
14	高6	S30	足 立 猛					A	初
15	高6	S30	荻 野 克 彦		富山(大田)	富山(大田)	化学	A	
16	高6	S30	田 村 稔 久		北堀小	松江一		A	
17	高6	S30	石 原 綏 子	河津	雑賀小	松江四	コーラス	A	
18	高7	S31	青 戸 俊 夫		生馬小	生馬中	新聞	A	
19	高7	S31	廣 政 俣 彦		雑賀小	松江三		A	
20	高9	S33	坂 本 隆 男		乃木小	松江三	化学分析	C	
21	高9	S33	澄 川 光 成	伊藤	雑賀小	松江四		C	
22	高9	S33	逸 見 充 宏		玉島小(岡山)	松江一	バドミントン	C	
23	高9	S33	木 村 八 重 子	木山	母衣小	附属中	ソフトボール	C	
24	高9	S33	佐々木悦子	岡部	徳島市立津田小	松江一		C	
25	高9	S33	佐 藤 早 智 子	松村	雑賀小	附属中	花道・手芸部	C	
26	高10	S34	面 白 紘		本庄小	本庄中	サッカー	D	
27	高11	S35	押 田 良 樹		雑賀小	松江四	軟式テニス・図書	B⇒D	
28	高11	S35	田 中 一 男		白潟小	松江三	宍道湖一周 2・3学年1位	D	

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル	参加
29	高11	S35	畑 田 稔		附属小	附属中	卓球	D	
30	高11	S35	村 尾 俊 治		雑賀小	松江四	絵画	D	
31	高11	S35	新 谷 公 子	石飛	入間 (掛合)	掛合中	音楽	D	
32	高11	S35	今 井 洋 子	福代	北堀小	松江一	手芸部	D	初
33	高12	S36	萩 野 貫 悟	筒井	揖屋小	東出雲中 (揖屋)		D	
34	高13	S37	桑 原 洋 史		熊野小	附属中		E	
35	高13	S37	藤 田 ト ク 子	小笹	白潟小	松江三	ソフト部	E	
36	高13	S37	水 野 明 代	長妻	雑賀小	松江三		E	初
37	高13	S37	山 下 俱 子	今井	乃木小	松江三	美術部	E	
38	高14	S38	加 藤 巡 一		附属小	松江一	化学分析	F	
39	高14	S38	木 村 修 芳		修立小 (鳥取)	附属中		F	
40	高14 山口高校	S38	小 泉 勝 是		北堀小	松江一		F	
41	高14	S38	木 幡 晃 正		宍道小	附属中	陸上部	F	
42	高15	S39	金 坂 喜 好		大野小	大野中		E	
43	高15	S39	真 庭 功		益田・吉田小	附属中	放送部	E	
44	高16	S40	井 上 伸 久		川津小	松江二		G	
45	高16	S40	梅 木 隆 志		森山小 (下字部尾分)	美保関北中	陸上部	G	
46	高16	S40	土 田 和 男		内中原小	松江一	バドミントン	G	
47	高16	S40	坪 倉 司 郎		本庄小	本庄中		G	
48	高16	S40	松 本 耕 司		本庄小	本庄中	陸上部	B⇒G	
49	高16	S40	森 藤 哲 章		広瀬小	広瀬中	軟式テニス同好会	G	
50	高16	S40	山 田 敬 子	矢壁	松原 (浜田)・川本・益田	益田東・浜田二・浜田高校	美術	G	
51	高17	S41	岡 久 夫		法吉小	松江一	陸上部	F	
52	高17	S41	永 井 貞 泰		仁多・鳥上小	仁多・鳥上中	弓道・写真部 2年バレーボール	F	
53	高18	S42	石 賀 誠 一 郎		兵庫・豊岡小⇒北堀小	松江一	陸上部	H	
54	高18	S42	小 田 一 美		内中原小	松江一	天文気象	H	
55	高19	S43	岩 田 一 志		荒島小 (安来)	安来三	バレー・文芸	H	
56	高19	S43	万 波 迪 義		附属小	附属中	陸上部	H	
57	高19	S43	池 田 喜 美 代	川原	北堀小	松江一	考古学部	H	

2019(令和元)年度「総会・講演会・懇親会」出席者名簿

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル	参加
58	高20	S44	小 数 賀 健 二		法吉小	松江一		I	
59	高20	S44	三 好 資 子	恩田	北堀小	松江一	(帰宅部)	I	
60	高20	S44	山 嵯 麻 里 子	木村	益田・松原小(浜田)	浜田二・松江一	双曲(お琴)	I	
61	高22	S46	内 村 昭		佐太小	鹿島中	サイクリング通学 片道12km×3年間	J	
62	高22	S46	実 重 祐 二		安来小	安来一		J	
63	高22	S46	永 瀬 光 一 郎		母衣小	松江二		J	
64	高22	S46	村 田 貢		西郷小	西郷中	バンド活動・早弁クラブ	J	
65	高22	S46	大 浦 綾 子	大浦	北堀小	松江一	機械体操	J	
66	高22	S46	木 山 洋 子	平田	三成・上山佐・広瀬小	広瀬・西郷中		J	
67	高22	S46	鶴 羽 孝 子	石橋	持田小	松江二		J	
68	高22	S46	西 村 紀 子	松本	附属小	附属中	茶道部	J	
69	高23	S47	松 本 潤		安来小	安来一		K	
70	高23	S47	森 脇 泰 雄		内中原小	松江一	無線部	K	
71	高24	S48	伊 藤 澄 夫				バスケット部	K	
72	高24	S48	徳 田 完 二		隠岐・御波小	隠岐・海士中		K	
73	高24	S48	河 村 敦 子	橋本	法吉小	松江一		K	
74	高24	S48	園 山 靖 枝	佐々木	附属小	附属中	コーラス	K	初
75	高24	S48	田 島 真 澄	三津井	出雲市立神西小	附属中	合唱	K	初
76	高26	S50	岩 谷 智 志		北堀小	松江一	美術	L	初
77	高26	S50	川 谷 徳 彦		古江小	古江中	JRC	L	
78	高26	S50	周 藤 達 夫		北堀小	松江一	社研	L	
79	高26	S50	福 間 則 博		雑賀小	県外	サッカー	L	
80	高26・ 理5	S50	松 村 聡		北堀小	松江一		L	
81	高26	S50	井 山 裕 子		佐太小	附属中	バスケット	L	
82	高26	S50	前 羽 香 江	幡	附属小	附属中	JRC	L	
83	高26	S50	矢 野 美 紀 子	難波	小田小	赤来中	バレーボール	L	
84	高27	S51	野 口 博 也		内中原小	松江一	剣道部	I	初
85	高27	S51	木 田 京 子	能海	本庄小	本庄中		I	
86	高27	S51	新 宮 富 美 子	新川	母衣小	松江二		I	
87	高27	S51	松 田 稚 子	永島	意東小	東出雲中	硬式テニス	I	

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ	テーブル	参加
88	高29 (松江)	S53	達 山 暢		城北小(北堀)	附属中	写真・映画研究	M	
89	高29 (福岡)	S53	福 本 秀 一		内中原小	松江一	硬式テニス	M	
90	高29	S53	山 本 修 司		恵曇小	鹿島中	バレー	M	
91	高29	S53	浜 野 則 子	田中	城北小(法吉)	松江二	JRC	M	
92	高29	S53	廣 瀬 弘 美	藤原	城北小(北堀)	松江一	演劇部	M	
93	高31	S55	宍 道 弘 志		内中原小	松江一	弓道部	H	
94	高32	S56	浅 沼 吉 正		城北小	松江一	バレーボール	H	
95	高35	S59	富 岡 幸 子	三和	七類小	美保関北中		N	
96	高36	S60	今 宮 一 正		内中原小	松江一	軟式テニス	N	
97	高38	S62	長 谷 川 浩 之		白潟小	松江三	野球部	N	
98	高40	H1	福 江 直 弘		内中原小	松江一	剣道部	N	初
99	高42	H3	三 好 博 子	稲田	朝日小	松江三	硬式テニス	N	初
100	高58	H19	勝 部 尚 樹					N	初
101	高64	H25	才 木 瞳 美		中央小	松江三	バドミントン部	N	

総会議事(1) 近畿双松会 活動事業報告

◆2018(平成30)年度

12月	2日	(日)	平成30年度 設立60周年記念「総会・講演会・謝恩懇親会」 (於：中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め125名) (記念講演は高橋一清氏(松江観光文化プロデューサー、湖都松江編集統括、 演題は「松江への思い」) (郷土産品の大福引大会を実施)
	"	"	平成30年度「設立60周年記念会報」の編集開始
1月	6日	(日)	事務局会議 & 有志新年会開催(参加20名)
	20日	(日)	第2回宝塚歌劇鑑賞会(参加33名、於：宝塚大劇場)
2月	2日	(日)	平成31年度新年役員懇親会(新年度方針意見交換・参加23名)
3月	16日	(土)	第11回落語鑑賞会(於：天満天神繁昌亭・参加32名)
	29～30日	(金・土)	第4回松江北高野球部大阪遠征応援(29日八尾高校、30日北野高校)(参加6名)
	31日	(日)	平成30年度「設立60周年記念会報」の発行
	"	"	平成30年会計年度終了

◆2019(平成31・令和元)年度

4月	1日	(月)	平成31・令和元年度事業・会計開始
	7日	(日)	事務局会議開催(新年度方針具体策検討)
	21日	(日)	平成31・令和元年度事業計画ならびに平成30年度会報の発送
5月	23日	(木)	第43回近畿双松会ゴルフ(参加14名、於：武庫ノ台)
7月	21日	(日)	第14回文楽鑑賞会(参加20名、於：国立文楽劇場)
8月	6日	(火)	事務局会議開催(総会&秋季事業対応方針検討)
9月	7日	(土)	令和元年度総会・講演会・懇親会の案内を発送
10月	19日	(土)	東京双松会総会(松本会長 表敬出席)
	27日	(日)	第14回歴史ウォーキング(昨年台風中止のリベンジ版) 「NHK大河ドラマ」西郷どんの足跡を訪ね、京都東福寺即宗院と伏見界隈(参加30名)
11月	10日	(日)	第9回里山棚田歩くぞ!ハイキング 「福知山線廃線敷トンネル(生瀬～武田尾間)」(参加21名)
	16日	(土)	事務局会議開催(総会懇親会最終打ち合わせ)
	24日	(日)	令和元年度「総会・講演会・懇親会」 (於：中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め101名) (講演は若槻喜保氏(高11・津田街道未来塾幹事長)、 演題は「スポーツと郷土を愛した男 岸 清一(中4)」 (公演は小林忠夫氏(高9・松江出雲弁保存会会長)の「出雲弁なんぞかんぞ」
	"	"	令和元年度「会報」の編集開始
1月	10日	(金)	メールマガジン"さんみゃくうかびて"第1号を約300名に配信
	11日	(土)	事務局会議 & 有志新年会開催(参加16名)
	19日	(日)	第3回宝塚歌劇鑑賞会(参加32名、於：宝塚大劇場)
2月	29日	(土)	令和2年度新年役員懇親会(新年度方針確認)(参加20名)
3月	中止		第12回落語鑑賞会(新型コロナウイルス感染予防のため、中止)
	中止		第5回松江北高野球部大阪遠征応援(遠征の中止)
	31日	(火)	令和元年度会報の発行
	"	"	令和元年度会計年度終了

※ HP アクセス件数 2020.3.16 現在 46,804 件 (前年 + 4,755 件)

総会議事(2) 近畿双松会 会計・監査報告

2018 (平成30)年4月1日～ 2019 (平成31)年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
◎ 前期繰越金	2,105,882	◎ 支出計	2,961,732
◎ 収入計	3,140,721	・ 通信費	196,848
・ 平成30年度 運営費支援収入	682,000	・ 印刷費	169,802
・ 同、60周年記念寄付・広告収入	985,000	・ 事務費	132,852
・ 平成30年度 60周年記念総会参加費	878,000	・ 郵便、銀行手数料等	23,706
・ 平成30年度 諸行事参加費収入	521,720	・ 平成29年度 会報費	249,500
・ 平成31年度 役員会参加費	69,000	・ 平成30年度 60周年記念会報費	
・ その他収入・雑収入	5,001	(年度先行ぶん)	536
		・ 平成30年度 60周年記念総会費	1,012,678
		・ 同、60周年記念福引賞品代	475,861
		・ 同、60周年記念双松会寄付	100,000
		・ 平成30年度 諸行事支払い	526,296
		・ 平成30年度 役員会会議費	73,653
		◎ 次期繰越金	2,284,871
		・ 内訳	
		(郵便貯金振替残)	1,545,915
		(郵便貯金)	506,035
		(現金)	232,921
◎ 総合計	5,246,603	◎ 総合計	5,246,603

(注) 繰越金前年比 (＋) 178,989

上記のとおり報告いたします。

会長 松本 耕司 ㊞

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2019 (令和元)年10月14日

監事 物種 慶子 ㊞

監事 鶴羽 孝子 ㊞

総会議事(3) 2019(令和元)年度 近畿双松会役員

2019/11/24 総会承認

役	期	氏 名	役	期	氏 名
常任顧問	高 7	山 本 雅 昭	常任幹事	高19	岩 田 一 志
常任顧問	高11	押 田 良 樹	幹事	高19	池田喜美代
			常任幹事	高20	山寄麻里子
会長	高16	松 本 耕 司	(再)常任幹事	高20	渡 辺 悟
(兼)事務局長			常任幹事	高20	小敷賀健二
			常任幹事	高22	村 田 貢
副会長	高16	梅 木 隆 志	常任幹事	高22	内 藤 善 夫
副会長	高20	三 好 資 子	常任幹事	高22	大 浦 綾 子
(再)副会長	高23	松 本 潤	幹事	高23	松 本 幸 子
			幹事	高23	山 口 紀 子
監事	高20	物 種 慶 子	幹事	高24	徳 田 完 二
監事	高22	鶴 羽 孝 子	幹事	高24(理3)	岩 間 令 道
			幹事	高24	糸 原 直 彦
幹事	高 1	荻田運三郎	幹事	高24(理3)	泉 紳 一 郎
幹事	高 2	堀江眞三人	幹事	高26	福 間 則 博
幹事	高 3	緒 形 公 士	常任幹事	高26(理5)	松 村 聡
常任幹事	高 5	山 田 稔	幹事	高26	周 藤 達 夫
幹事	高 6	田 村 稔 久	幹事	高27	新宮富美子
常任幹事	高 7	廣 政 俣 彦	常任幹事	高29	廣 瀬 弘 美
幹事	高 8	山 崎 杲	幹事	高30(理9)	千 葉 潮
幹事	高 9	逸 見 充 宏	常任幹事	高31	宍 道 弘 志
幹事	高10	面 白 紘	幹事	高31	小 林 満
幹事	高11	田 中 一 男	幹事	高31	西 村 英 明
幹事	高12	萩 野 貫 悟	幹事	高32	浅 沼 吉 正
幹事	高13	永 江 幹 雄	幹事	高32	木 村 滋 樹
常任幹事	高14	加 藤 巡 一	幹事	高32	田 黒 公 司
常任幹事	高15	金 坂 喜 好	幹事	高32	藤 本 斉 子
幹事	高15	佐 藤 修 介	幹事	高33	柳 井 利 明
常任幹事	高16	土 田 和 男	常任幹事	高35	富 岡 幸 子
幹事	高16	三 成 宏 二	幹事	高36	森 口 次 郎
常任幹事	高17	岡 久 夫	幹事	高38	長谷川浩之
常任幹事	高18	小 田 一 美	幹事	高43	安 達 宏 昭
幹事	高18	石賀誠一郎			

以上 60 名

ご挨拶 近畿双松会会長 松本 耕司 (16)



皆様 こんにちは。

会長を仰せつかっております16期の松本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会員の皆様には、日頃より、当会の活動に対し、格別のご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

昨年は、平成最後の年が当会設立60周年という記念の年でしたが、ご承知のように盛況の裡に終えることができました。本当に有難うございました。そして、いよいよ新しい時代「令和」が始まり、今回が令和最初の総会となりました。

数日前から「雨」を覚悟しておりましたが、なんと晴れ上がりました。今朝バスに乗りましたら素敵なお嬢さんから「お席をどうぞ」と譲られそうになりました。勿論、感謝してご辞退いたしましたがとても気持ちの良い一日が始まったと感じております。その上、皆様にはこうして多数ご参集いただきまして、重ねて厚く御礼申し上げます。

また、松江からは双松会の金津会長、金平幹事長。母校からは常松校長先生、堀江先生。講師として11期の若槻様、9期の小林様にお出でをいただきました。東京双松会からは糸原事務局長、島根県大阪事務所からは門脇副所長。そして日ごろお世話になっておりますふるさと会の近畿松江会からは伊藤顧問、木村副会長、竹谷幹事長のご参加をいただきました。後ほどあらためてご紹介を申し上げますが、まずは高い席からではございますが、厚く御礼を申し上げます。

さて、61年目を迎えた近畿双松会ですが、新しい時代を迎えて、一点、大きな取り組みをしておりますので、ご報告いたします。

このところ、若手世代、中堅世代の方のご住所の把握がとみにむづかしくなっており、加えて、卒業

生の数は減ってきておりますので、放っておけば将来にはこの会の運営に大きく影響があると考えております。

そこで、お手元資料の最後にも「メールアドレス登録のお願い」を添付させていただきましたが、できるだけ早くメールマガジン、LINE@の二つのSNSによる情報発信もしていきたいと考えております。

これによりまして、これまでの住所録による郵便連絡とSNSとの二本立てによる連絡体制を備え、異動の激しい若手・中堅世代の方々との接点が増えることを期待してまいりたいと思います。

5年、10年にかかる息の長い取り組みになると覚悟しておりますが、この会の将来への継続、発展を考え、還暦越えを期して今こそ取り組むべき時と判断いたしました。

これからは、このSNS体制、運用の充実に関わるお願いが何かと増えてまいりますが、皆様には趣旨ご理解いただきましてご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日はこれから、NHK大河ドラマ「いだてん」で取り上げられた郷土の偉人、岸清一先生について、松江からお越しの若槻喜安先輩にご講演をいただきます。岸先生の偉業については、この機会に同窓後輩である我々が一番よく認識しておかなければならないという思いからでございます。

また、同じく小林忠夫先輩からは、なつかしい「出雲弁」でのトークをお願いしております。どうぞ存分に、郷土に触れてお楽しみいただければ幸いです。

当会も還暦を過ぎて迎えた最初のこの総会、懇親会が「楽しくなごやかな会」になりますことを心から願っております。年に一度の校歌も、お互いに力一杯、歌い上げましょう。

最後になりましたが、お集まりの皆様の益々のご多幸をお祈り申し上げ、また、今日の運営にご協力をいただいております役員の皆様に感謝を申し上げます。まして、私のご挨拶とさせていただきます。

有り難うございました。

来賓ご挨拶・祝辞 双松会会長 金津任紀 (16)



皆さん、こんにちは。

今年も近畿双松会の総会にお招きをいただき、誠にありがとうございます。このように、多くの会員の皆さまが出席され総会が盛大に行われますこと、まずもってお喜び申し上げます。

今年は新天皇の御即位に伴い、元号も「令和」と変わり、新たな時代の幕開けとなりました。平和で豊かな国づくりに、日本人の美しい心が融合し浸透していくことを願う次第でございます。

一方で、東日本では今年も台風などの災害が続くなど、今なお避難生活を余儀なくされている方がおられます。被災された方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。日本は災害列島といわれるように、いつでもどこでどんな災害が起こるか分からないだけに、国を挙げて防・減災対策のためのインフラ整備が強力に推進されることを願うばかりです。

さて、近畿双松会は昨年60周年を終えられ、新たな歴史に向かってスタートを切られましたが、益々活発に活動をされていることは大変喜ばしい限りです。会報等を拝見しましても、皆さまの和気藹々とした雰囲気、表情から会員同士の深い絆を感じることができます。現代においては、このつながりは非常に貴重な存在で、何かの時に役立つばかりか心の拠り所にもなるものと考えております。

先ほどは、新たな運営のあり方について松本会長からお話がありました。母校や双松会の精神は不変ですが、運営のあり方を常に模索していくことは大事なことであり、私も強く思っております。そのためには並々ならぬご苦労が必要になりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

また、会員同士の交流や情報提供は地域を超えて、双松会全体にとっても大きな課題ですので、何かい

い知恵がありましたら、ぜひ私どもの方にもお寄せいただきますようお願いいたします。

地元の話題を二、三、申し上げますと、松江では今、新幹線誘致に向けての大きな波が起きつつあります。近畿圏とは地図で見れば近いですが、行こうと思えば山陽方面よりはだいぶ時間がかかります。やはり、新幹線がないのが一番の問題で、誘致が実現すれば大きな交流圏ができあがります。皆さまにも是非応援していただければと思っております。

また、島根では今年はいじめて県外出身で40歳代の丸山知事が誕生しました。新知事は「人口減、高齢化、人手不足」という三重苦に対応するため、県内を東奔西走の日々を続けておられますが、「何かが変わるかもしれない」という県民の期待は非常に大きいものがあるように感じております。

さらに、県都松江の商工会議所の会頭に、ご存知の田部家の当主、田部長右衛門氏が就任されました。同氏は49期の卒業で40歳という若さであり、全国で最も若い会頭として、新しい時代の始まりを予感しております。

皆さまにおかれましても、こういったふるさとの動向もぜひ見守っていただければと存じます。

母校松江北高につきましては、今年も生徒諸君は学業にクラブ活動にめざましい活躍をしてくれております。在校生の活躍は、我々卒業生にとっては大きな誇りであり、双松会は今後ともその活動を応援していきたいと思えます。

また、母校の象徴である「双松」も、3月に右側4代目の松の植樹を無事に終え、その後順調に生育しておりますこともご報告しておきます。皆さまには、引き続き母校、生徒諸君へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、5月に行われた10年に一度の船神事「ホーランエンヤ」は、絢爛豪華、圧巻の時代絵巻として盛況の裡に終了いたしました。皆さまには母校愛とともに、豊かな自然と歴史、伝統文化が根づく島根そして松江への郷土愛を持ち続けていただければ幸いに存ずる次第でございます。

終わりに、近畿双松会のさらなるご発展と、お集まりの会員の皆さまのご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

来賓ご挨拶・祝辞 松江北高等学校校長 常松 徹



皆様、こんにちは。

先ほどご紹介いただきましたが、4月に島根県教育委員会から着任いたしました常松と申します。

このところ、北高卒業の校長先生が続いておりましたが、私は卒業生ではありません。しかし、今回が3回目の北高勤務となります。昭和59年に学校を出てすぐに4年間、次は平成16年から8年間、そして今回と通算13年目になります。

出身は出雲高校で、一度も勤務したことはありません(笑)が、今回の勤務を大変嬉しく思っております。母校のつもりで頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

お手元にも資料をお届けしましたが、北高の様子について少しお話をさせていただきます。生徒は「文武両道」をめざして頑張っております。

「進路」については、昨年は国公立大学に175名、私立大学には273名が合格しています。一クラス減りましたので人数は減っております。その内、いわゆる難関大学と言われる大学は22名です。また医学部医学科への合格は11名で、これも例年に比べると少し減っているなと思いますが、これも少しずつ回復させていきたいと考えております。

「部活動」については生徒の92%が加入して活動しております。今年の県の総合体育大会では残念ながら優勝を逃し総合2位でしたが(優勝は大社高校)、陸上、ボート、登山、弓道、新体操、水泳などの選手が全国大会に出場しました。

中でも、女子ボートの舵手付きクォドルプル、(四人漕ぎ)ではインターハイ2位という立派な成績をあげました。

また、先月でしたが弓道女子が新人戦で優勝し12月の全国選抜大会に出場いたします。先ほどの女子ボートのクォドルプルは中国新人大会で優勝し、3月の全国大会に出場することになっています。

「文化部」も活発に活動しておりまして、8月におこなわれた全国高校総合文化祭という全国大会に、百人一首かるた部、将棋・囲碁部、自然科学部が参加しております。

ほかにも、高校生英語弁論全国大会で、1年生の黒谷君が第2席に相当する文部科学大臣賞を受賞しています。また、全国明るい選挙啓発ポスターコンクールでは、昨年も美術部1年生の斎田さんが1年の部で第1位(文部科学・総務大臣賞)をとりましたが、今年も1年生の川本さんが第1位となり、1年生部門で2年連続最高賞という立派な成果をあげています。

さて、会報の「双松」にも書きましたが、今の中学2年生が高校に進学する時から、松江市内、南・北・東の3校のいわゆる通学区が廃止され、生徒は自由に高校を選べるようになります。

今、高校側ではそれぞれの特色を出すよう準備をしているところですが、それにつながるものとして昨年度から実施している「世界の人たれ北高生事業」があります。これには双松会員の皆様のご寄付を、「英語能力プログラムや、アメリカ西海岸への短期留学希望者への資金補助」などに使用させていただいています。皆様のご寄付が北高の活動に大変役に立っており、有難く存じている次第です。

以上、北高も令和の新しい時代に向かっていろいろな取り組みを続けておりますが、一方で「不易流行」の「不易・・変わらないもの」も大事にしていかなければならないと考えております。

皆様のいろいろなご意見をいただきながら、「新しい北高づくり」をしていきたいと思っております。どうぞ忌憚のないご意見、アイディアをお聞かせいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日はこのような席にお招きいただきまして有難うございました。

2019(平成31・令和元)年度 松江北高校十大ニュース

(注)この記事は北高教頭・双松会事務局長の田村康雄先生(34)に特別制作のご協力をいただきました。

▼H31年3月卒業生の進路

国公立大学に175名(既卒者を含む、昨年度より1学級減)が合格しました。そのうち、難関10大学(北海道大・東北大・東京大・東京工業大・一橋大・名古屋大・京都大・大阪大・神戸大・九州大)の合格者は22名、医学部の合格者は11名でした。また、私立大学の合格者数は、延べ273名でした。

▼平成31年度がスタート

新たに常松徹校長を迎え、平成31年度がスタートしました。1学年7クラス、全校生徒数825名、起雲館にある補習科生は23名でのスタートとなりました。

▼第57回島根県高等学校総合体育大会

『男女総合第2位』!!

令和元年5月25日から6月2日の日程で、第57回島根県高等学校総合体育大会が開催されました。各部とも日頃の練習の成果を存分に発揮し、男子総合2位、女子総合3位、男女総合2位(昨年度は男子総合3位、女子総合3位、男女総合2位)という結果でした。女子ボート部、男子登山部、弓道個人、新体操個人、陸上競技個人、水泳個人が全国総体へ進出しました。

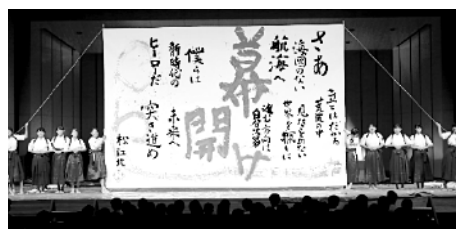


① 女子ボート部、全国高校総体『準優勝』!!

▼女子ボート部、全国高校総体『準優勝』!! (写真①)

8月に熊本県で開催された全国高校総体ボート競技大会において、女子舵手付きクォドルプル「實原さん(3年)・中島さん(3年)・錦織さん(3年)・三島さん(2年)・持田さん(2年)」組が第2位に輝きました。

このほか、女子ボート部は、茨城県で開催された国民体育大会にも出場しました。



② 紅陵祭「書道部によるパフォーマンス」

▼弓道部、全国選抜大会出場

12月に群馬県で開催された全国高等学校弓道選抜大会に、伊藤さん(2年)、和田さん(2年)、矢是さん(2年)、南波さん(2年)が出場しました。

▼文化部大健闘 全国大会へ!

8月に佐賀県で開催された全国高等学校総合文化祭に以下の部が出場しました。

「百人一首かるた部」では、小倉百人一首かるた部門競技の部の団体戦に島根県代表チームの一員として寺井さん(3年)、



③ 紅陵祭「3年生によるページエント(野外劇)」

曾田さん(3年)が出場。「自然科学部」の守岡さん(3年)が「宍道湖湖面の模様の研究Ⅱ」と題して研究発表を行いました。さらに、「将棋・囲碁部」では、将棋部門団体戦に有間君(3年)、山本君(2年)、古志野君(2年)が出場。囲碁部門団体戦に島根県代表チームの一員として永田さん(1年)が出場。永田さんは、8月に東京で開催された全国高校囲碁選手権大会、3月に大阪で開催された全国高等学校囲碁選抜大会にも出場しました。

▼紅陵祭(学園祭)盛大に！(写真②③)

第12回紅陵祭(第71回松江北高学園祭)が8月29日から31日の3日間、盛大に行われました。

1日目は県民会館での開会式、書道部によるパフォーマンス(写真②)、1年生の合唱コンクール、北高OGのシンガーソングライター山根万里奈さんを招いてのライブなど。午後は会場を学校に移し、2年生各ルームの出し物や各文化部展示。

2日目はヘルンをたたえる英語のスピーチコンテストやPTAバザー。

最終日は体育祭で生徒は完全燃焼しました。特に3年生によるページェント(野外劇/写真③)は圧巻でした。

▼令和元年度 全国明るい選挙啓発ポスターコンクール 高等学校1年の部「全国1位」！(写真④)

美術部1年生川本さんが、全国明るい選挙啓発ポスターコンクール高等学校の部において、文部科学・総務大臣賞を受賞しました。島根県で最優秀賞となり、全国で高校約400校、5,000名の応募の中から、高校1年の部で第1位に輝きました。この大臣賞は昨年度に続き2年連続の受賞という快挙です。



④「全国明るい選挙啓発ポスターコンクール」2年連続優勝



⑤ 高校生英語弁論大会 文部科学大臣賞受賞

▼高校生英語弁論大会 文部科学大臣賞受賞(写真⑤)

国際交流をテーマに英語でスピーチする「第39回高校生英語弁論大会」で、黒谷君(1年)が、第2席に相当する文部科学大臣賞を受賞しました。南太平洋のトンガ王国に楽器を贈る交流を通じて、豊かさの本質を考えるようになったことを流ちょうな英語で伝えました。

▼すくすく育っています 第4代双松(二本松)(写真⑥)

松くい虫の被害に遭い、やむなく撤去された松にかわる新たな松(東側、写真では向かって右側の松)の植樹祭を3月24日に行いました。枝の先には新芽が伸び、秋には雌花(松ぼっくり)の蕾がつけました。(写真は2019年3月24日撮影、左・二代目、右・四代目)



⑥ すくすく育つ右側の松

期別テーブル写真



ご来賓の皆さん



2期、5期、6期、7期の皆さん



ご来賓と9期の皆さん



10期、11期、12期の皆さん



13期、15期の皆さん



14期、17期の皆さん



16期の皆さん



18期、19期、31期、32期の皆さん



20 期、27 期の皆さん



22 期の皆さん



23 期、24 期の皆さん



26 期の皆さん



29 期の皆さん



常松校長先生と 35 期、36 期、38 期、40 期、
42 期、58 期の皆さん

スナップ写真





スナップ写真





講演

「スポーツと郷土を愛した男 岸 清一」

講師：若槻 喜保氏(11) 津田街道未来塾幹事長



I. はじめに(略)

II. 岸清一の足跡を追って

1. 生い立ち 東京遊学へ

・慶應3年7月4日 松江市雑賀町地行場で下級武士(司獄官)岸伴平の次男として生まれる。

※ この年にえいじゃないかが起こり、12月には大政奉還の号令が発せられ、翌年明治の世となる。

※ 夏目漱石、正岡子規、幸田露伴、尾崎紅葉etcが生まれた成り年。坪内祐三著「慶應3年生まれの7人の旋毛曲がり」(2001刊)

- ・雑賀町は、橋南の下級武士の居住区…「雑賀魂」
澤野修輔 梅健次郎兄弟 山口鋭之助…勉学を積み、上京し、成功していた
- ・当時の教育環境
藩校「修道館」(上級武士が通う)下級武士、庶民は、

塾・寺子屋に通う。松江に54あった。雑賀町には、4つの塾、12の寺子屋があった。他地域より多い。

※ 培塾(澤野修輔)・共進学舎(尾原総八)・博審学舎(永田穂積)・普通学舎(渡部寛一郎)

・岸清一は、明治6年の学制発布と同時にできた洞光寺の庫裏で開校した雑賀小学校に入学した。学年は異なるが若槻禮次郎、西田千太郎等も入学した。

若槻禮次郎、岸清一を「臥龍鳳雛」と雑賀小学校5代校長栗田幹氏は例えた。

臥龍…今は伏しているが起き上がれば大成する【若槻】
鳳雛…将来大きく羽ばたく優れた強い人【岸】

・小学校を首席で通した岸は、明治12年教師たちの推挙もあり松江中学校(現松江北高)へ進学を決め、入学試験に合格し、殆どの科目を英書の教科書とし



岸清一



岸清一生家(「岸清一伝」より)

た第二科に進んだ。

- ・明治16年3月、17歳の時に、首席を通して中学校を卒業した。
- ・第4回の卒業生であったが、入学当初50名であった生徒が中途退学病死等によって、卒業したのは、18名でそれまでの最も多い卒業生であった。
- ・岸は中学校在学当時、上京して、勉学に励み、活躍している先輩達を見、聞きた。岸は青雲の志を抱き、上京への決意を新たにした。家族、特に父伴平の理解を得て、家禄奉還金300円等、岸家の全財産を懐に、明治16年初夏、上京する。父伴平が長州征伐で敗走しながらも持ち帰り、家宝にしていた兜をも金に換え、上京資金にした逸話は有名である。



松江中学校第二科生（前列右から2人目が岸清一、3人目が若槻禮次郎

2. 東京遊学時代

大学予備門(1年半)・東京大学法学科(4年間)

※ 明治19年より帝国大学法学部、30年より東京帝国大学法学科と改称

※ 東京大学の歴史は、明治元年に官立洋学研究・教育機関として創立された「東京開成学校」と東京医学校が合併し、明治10年に法・理・文・医学部を備える東京大学となった。元は文久3年、旧幕府直轄の「開成所」から発展した。

・明治16年初夏に松江を後にし、半年後の明治17年1月に東京大学予備門(後の旧制第一高等学校)の2年生補欠試験に臨んだ。受験生122名中、合格者はただ一人最年少の岸。天下の秀才を集めて行われた試験での合格は「予備門に岸清一あり」と一躍注目を集めた。

・明治16年10月、岸、志立鉄次郎等(後に日本興業銀行総裁)8名で「出雲学生会」を立ち上げる。

・明治18年9月、東京大学法学科に入学。

大学在学中は、学業はトップクラスを競い、次期で卒業した。在学中から弁護士として活動することを目指し、増島六郎弁護士の事務所に通い実務を学ぶほど法曹界への志が強かった。

・岸は、学業だけではなく、余暇も当時流行していたトランプ、玉突きに熱中し、酒も大いに飲んだと郷里を同じくする同級生志立鉄次郎は語っている。

【講師紹介】

●若槻喜保氏：出雲市出身、松江一中、松江高校(11期)、島根大学教育学部卒業。松江市内小学校教諭を経て島根大学教育学部附属小学校教官、島根県教育委員会指導主事、松江市立城北小学校校長。

退職後、島根県埋蔵文化センター嘱託。松江市雑賀まちづくり推進協議会委員として活動するとともに、町内の魅力、誇りを発見、発掘し、町の活性化を図る活動を起こす。

平成25年に「津田海道の歴史」と「津田海道の伝統と文化」に章立てした町誌『津田海道物語』を編纂。平成26年、町内有志で「津田街道未来塾」を立ち上げ、岸清一先生の生涯、功績に光を当て、顕彰活動を行う。

津田街道未来塾幹事長。雑賀町在住

・スポーツとの出会い

・予備門の英語教師のフレデリック・ウィリアム・ストレンジが、学生たちに教えていた陸上競技、漕艇の魅力に岸は取りつかれ、ストレンジの直弟子として活動するようになった。

・明治16年、東京大学で初めて競争の要素を取り入れた運動会が開かれた。岸も参加し、卒業後は指導・運営を行い、全国に広め「運動会の産みの親」と言われている。

・ストレンジから英国のテムズ河のオックスフォード大学とケンブリッジ大学のボートレースが伝えられ、岸は、明治20年大学内の学部対抗ボートレースを隅田川で行った。

・卒業後も漕艇に尽くし、大正9年に日本漕艇協会を創立し初代会長となった。

3. 一人一業主義 弁護士で大成

「人に頼らず、媚びず、実力で生きたい」

培塾・澤野修輔の薫陶 — 自主・独立の精神

・明治22年7月、東大を次席卒業した岸は、代言人（「三百代言」と卑称されていた「八百の嘘でごまかす三百屋」）の免許を5日後に取り、東京都京橋区加賀町（今の西銀座6丁目）に事務所を開いた。

※明治23年、近代的な「弁護士法」が制定され、江戸時代から使われていた代言人に代わって弁護士と言う名

称が使われるようになった。

・明治30年、弱冠31歳で、それまで貯めていた預金1万円を投じてアメリカ、イギリスへ法律、特許事務、外資導入等の研究視察に行く。翌年4月に1年2カ月の先進国での研修から帰朝し、洋行帰りの国際弁護士として注目された。

・明治32年、京都の紙巻煙草製造業を営む村井兄弟商会に同業のアメリカの会社から外資導入を図り、大会社と成した。

・大阪瓦斯会社では外資導入交渉を成功させ、大阪市との道路使用权問題を解決し、望まれて取締役となった。外資導入の先駆者と同時に完成者と呼ばれた。

・弁護士として盛名が高まるにつれて法相の聲がかかったり、官界からの誘いがきたりすると、岸は、「弁護士は一生の仕事であり、片手間にすべき仕事ではない」とあっさり断った。

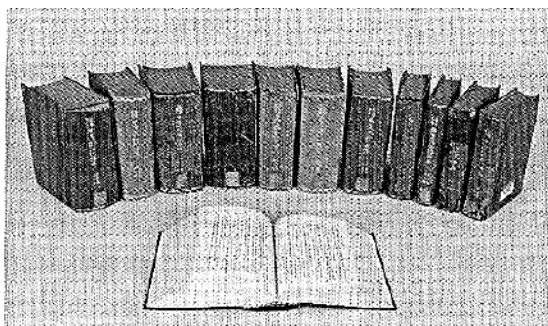
・久成寺移転訴訟（白濁大火：昭和2年 昭和3年～7年、5年間）

・大正12年の関東大震災の折、岸の機転で被害を免れた訴訟資料は、『岸清一訴訟記録集』12巻（下図）としてまとめられ、岸の法曹界での業績と共に、明治・大正・昭和の貴重な法律発達史、社会史でもある。

・弁護士仲間であつた岸事務所を訪れ、後法務大臣になった原嘉道弁護士は追悼録の中で「岸は、非常に強い



帝國大學ボートレースにおいて
法科大学優勝（後列左が岸）
明治22年4月



「岸清一訴訟記録集」12巻

性格の持ち主。弁護士としては最適である。しかも法廷に立つ以前の準備が実に周到で相手が挑戦してくればいつでも応ずるだけの用意を怠らない人だった。そして責任感の旺盛な人だった」。松江市西原町の岸法律事務所で働いていた田中保氏は「人情味が熱い、思いやりの深い、細かいところに気の付く人で仕事を離れると父親のようだった」と綴っていた。

4. 日本の近代スポーツ・オリンピックの父として

- ・岸が初めてオリンピックを視察したのは、明治41年のロンドン大会の時である。格差を感じた。
- ・明治42年春、フランス駐日大使ゼラルが、当時の東京高等師範学校長で講道館長である嘉納治五郎に「ストックホルムで開かれる第5回オリンピックに参加してほしい」と要請したことによって日本のオリンピック参加の扉が開かれた。
- ・嘉納は勧誘を承諾し、同年秋、日本最初の国際オリンピック委員となった。続いて、明治44年7月「大日本体育協会」が創立され嘉納が初代会長となった。
- ・ストックホルム大会からの参加状況等は別紙資料に記すが、特に、大正9年のアントワープ大会に参加して、競技への理解、練習方法等の遅れを強く感じ、日本スポーツ界を覚醒させる大会となった。
- ・大正10年、岸は大日本体育協会の第二代会長となった。大日本体育協会は、発足以来2回のオリンピック大会に参加してきたが、国からの財政的支援はなく、組織としても十分なものではなかった。発足当初から協会に協力し、裏方から支えてきた岸がいよいよ正念場を迎えた。
- ・岸が会長に就任して取り組んだのは、協会の財政難の解消と内部組織の改造である。
- ・国のオリンピックへの理解、岸・体協の努力によって大正13年のパリ大会から国庫より選手派遣費用補助が得られるようになった。また、昭和2年三井・三菱・岸が各3万円を寄付し、基金として協会の財団法人化をなした。内部組織の改革では、パリ大会前に13校問題が起こり、派遣選手の選考を本

部中心主義から、陸上、水泳等の各連盟が選考し、協会はそれを総括するものとした。

（編集注）「13校」は、早、慶、明、農実、農大、法政、中央、日歯、立教、大倉高商、拓大、慈恵、日医の13校。代表選手の選考が不公平だとして声明書を出して紛糾、この年の体協主催の全日本陸上競技選手権大会は流会となった。これを契機として体協の組織改革、各競技団体の自立体制が整っていくこととなる。

パリ大会のIOC総会で日本の陸上、水泳連盟がそれぞれ国際連盟に加入した。岸も国際オリンピック委員に任命された。

・昭和7年の第10回オリンピックはロサンゼルス大会であった。岸は、アメリカに次ぐ200名の選手団を2陣に分け送った。第1陣は岸が私財を投じた日本郵船の「龍田丸」であった。プールも備えた豪華客船で、海路16日間は選手たちの練習場と化した。

・日本は陸上、水泳、馬術等9競技に出場した。津田晴一郎（松中45期）はマラソン第5位、吉岡隆徳は百メートルで第6位に入賞する好成績であった。特に競泳陣は男子6種目中、五種目で優勝し世界を驚かせた。

・IOC委員の中でも《ドクトル・キシ》と呼ばれるほど国際的に認められてきた岸は、大会の一夜、大会組織委員のメンバーの招待宴を開き、席上「大会は欧米のみに限ることなく、五大州全部で開催すべきである。日本はアジアで唯一の開催資格を持っている国である」と訴え、ロビー活動を展開していった。



・昭和11年ベルリンでのIOC委員会で昭和15年、東京でのオリンピック開催が決まった。
・昭和12年7月7日の盧溝橋事件を契機に泥沼の日中戦争へと突き進み、これまで築いてきた岸たちのオリンピック・ムーブメントの志は軍部の前にかき消され、昭和13年7月、東京オリンピックの開催返上が決定した。ここにアジア初のオリンピックは、幻の大会となった。

5. 強い郷土愛

◆岸育英事業

大正6年、岸が帰省の際、松江中学校教諭山本庫次郎氏からの、小学校を優秀な成績で卒業しながら貧しいため進学できない生徒が多いという訴えを契機に大正8年、この岸育英事業を発足した。

殆どの奨学金制度は、貸費制であるが、岸育英事業は給費制であった。そこには岸一流の情味が含まれていた。「貸費を受けた側から言えば業成って後、これを返済すればそれで帳消しであるという考え方を青年に持ってほしくない。先輩に受けた恩は後輩にそれを返すべきである。他人から学資を受けてまで勉強する程のものなら、そうした心構えは当然、持っているはずだから、学費を与えた自分に返済する必要はない」と言うのである。「先輩に受けた恩は後輩に返していこう」である。

岸は恵まれぬ学生時代を送っていた明治19年、育英に熱心な旧藩主 松平伯爵の貸費制度が始まり、岸、若槻、志立鉄次郎(後に日本興業銀行総裁)等5名と共に月額10円を支給されてやっと学業を続けられたという忘れられない経験を持っていた。この恩義を岸らしい形で世に還したのである。

この岸育英事業は岸の没後、令嗣偉一氏によって昭和14年まで継承され、総受給者は546名を数える。その中には島根県選出の佐野広参議院議員や伊達副知事など多くの人材を生みだしている。

・松平伯爵の貸費制度後、明治31年に出雲育英会が発足し、明治37年に「出雲育英会寄宿舎」を開所した。昭和2年春には在京の学生の生活監督指導、経済面

を担う社団法人 出雲育英塾が成立し、東京中野に寄宿舎を新築した。岸は、出雲育英会当初より委員となり、出雲育英塾に於いては理事長として塾の運営、塾生の監督指導に全面的に尽力した。

忘れてならないのが、東京に上京遊学した学生の会合「出雲学生会」の存在である。明治16年、外神田福田屋に於いて岸、志立等八名によって創立されて以来130有余年、現在も「東京出雲学生会」とし、6月に総会、12月に「義士会」を開き、在京の学生の情報交換、交流の場となっている。

岸は、帰松すると必ず賣豆紀神社への参拝し、母校雑賀小学校を訪問した。その際後輩たちへ立派な人物になるために真心を以て取り組みなさいと伝え、「日本一の人になりなさい。商人でも大工でも百姓でも何でもよい。日本一の人物になるように心掛けなさい」という言葉を残した。

明治44年、児童奨励金として金300円を寄贈した。その寄贈金を基金として「岸法学博士奨学賞」を学年末に賞品と共に授与していた。

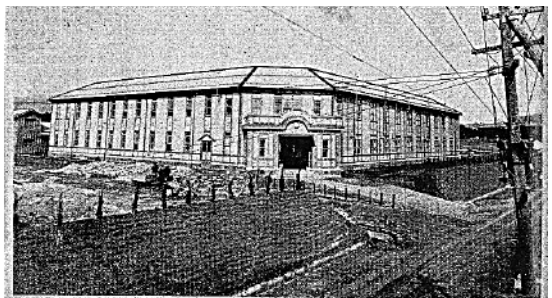
また、大正9年には体操器械費を、大正12年には創立50周年の記念事業にも寄与されている。

明治16年に卒業した松江中学校にも明治44年に700円を後進の奨励費として提供し、漕艇部選手を熱く指導する岸であった。

◆郷土の文化スポーツ施設の充実への貢献

1. 旧制松江高校(現島根大学)の誘致新設

大正9年11月、旧制松江高等学校は創設されたが、それ以前に山陰へ旧制高等学校農林学校の設置が計画された。

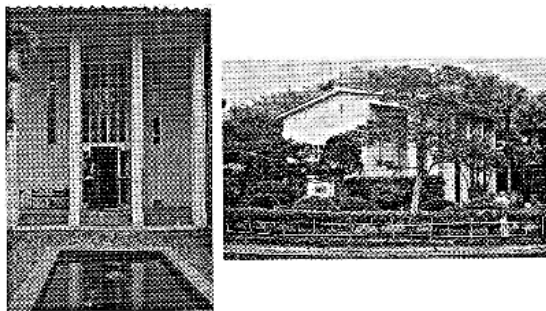


旧制松江高校(現島根大学)

松江市でも期成同盟を組織し猛運動を展開したが、鳥取出身の奥田文相の関係で鳥取市へ設置が決まった。松江市は、それならと…普通高校誘致へと切り替え、東京の岸に泣きついた。岸は、当時政友会総裁だった原敬氏に「もし、あなたが内閣を組織される時は、松江市へ第一に高校を設置してほしい」と要請した。大正7年9月原敬内閣が誕生し、高校増設問題が議題となり、大正9年11月、旧制松高は誕生した。このような経緯もあり岸は松高生に対する親近感は強く、帰松の度、同校を尋ねた。

2. 小泉八雲記念館創設への支援

明治37年、小泉八雲は松江をこよなく愛しながら東京で逝去した。ところが大正12年、その蔵書2,500冊が突然、富山高校へ寄贈された。松江から相談を受けた岸は直ちに小泉家と懇談、遺品等31点を譲り受けて、松江に送り、記念館建設に当たっては費用の半分を負担するなど、記念館誕生に尽力した。



昭和8年11月完成の小泉八雲記念館

3. 岸運動場建設

昭和13年春、松江市会議員山尾鶴吉氏が上京し、岸の長男岸偉一氏に「雑賀校は、運動場が貧弱な状態で橋南にも適当な運動場が欲しいというのが住民多年の要望である。それには、床几山公園付近が最適地である。」と直接要望した。偉一氏は、国民健康増進体位向上の上からも賛同され費用の全額2万円を寄付された。

昭和14年6月より小中学校、高校の生徒たちの

勤労奉仕の協力で同年11月3日に盛大な完工式が挙げられた。幼児遊園地、低学年遊園地、陸上競技場、少年野球場、テニスコート、弓道場、相撲場、選手、一般の控室等を備えた立派なものであった。町内の運動会、野球大会などにも利用され市民にとっては貴重な運動場であった。

しかし、松江市発展のため昭和30年に姿を消し、現在県立美術館、宍道湖畔に「岸公園」として市民、観光客の憩いの場、「日本の夕日百選」にも選ばれ人々を魅了する公園に姿を変え、多くの人々を楽しませている。



昭和15年4月完工した運動場（昭和30年松徳女学院となった）

Ⅲ. 岸 清一の人間性をみつめて

1. 「至誠努力」の人

真心を以って努力する、「至誠努力」。少年期からどの時代を切り取ってみても岸の志へ向かう姿勢はこの言葉につきる。東京大学までの学業については勿論、弁護士としての取り組み…郷土愛に燃えたいろいろな貢献も同じである。

昭和2年、帰松し雑賀小学校を来校した際、揮毫した書が今も雑賀小学校の玄関にかがけられているが、まさに言行一致、子ども達に与えるものも大きいことと考える。



2. 「自分は如何に生きるべきか」を追求し、行動した人

岸が偉業を成し遂げたのは「自分はいかに生きるべきか」という自主・自立の精神であり、幼少年期から松江中学校（現松江北高）の頃に育まれたと考える。

黒船来航と時を同じくして松江藩12代藩主に就任した松平定安、幕末期の外患の憂いに対する危機感の中で、洋学の導入や庶民教育（「百事は学問を以て基本」）、兵制改革など積極的に藩政改革を推し進めた。それを支える中に他藩から所望される程の儒学者雨森精翁、内村盧香がいた。

両人を師とする澤野修輔は岸の幼少年期、また雑賀小学校長として、子ども達が自己のよさに気づき、発揮し、師弟の信頼のなかで自立心を培っていく教育をしていった。内村盧香には、松江中学校時代、登校前の早朝に西茶町の「相長舎」まで毎朝通い教えを受けた。植民地化していくアジア、そのアジアの中の日本はいかに舵を取っていくのか…このような話題の中で、岸自身、如何に生きるべきかが人生の課題と気づいていったと思われる。

3. 相手を思いやる想像力、実行力

東京大学在学中郷里からの仕送りの途絶えがちの中での旧藩主松平伯爵からの奨学金、下級藩士で小学校、中学校、大学と進ませてくれた父伴平、家族の理解、支援等は一心に努力している岸の心に宿り、岸弁護士にすぎる弱い立場の人々、苦学生等の

心、姿を自分に置き換え想像し、自分のなし得る努力でもって相手の想い、夢に寄り添っていく岸の想像力、実行力は常人では難しい。

小泉八雲の遺品蒐集、記念館建設、床几山運動場建設等、郷土の文化、スポーツの脆弱さを思いやり、向上を願うのも強い郷土愛の現れである。

4. 国際人《ドクトル・キシ》と絆・人脈

日本の法曹界を代表する人であり、国際弁護士、IOC委員として日本は勿論、世界の多くの人から、認められ尊敬、信頼された岸。国際社会では《ドクトル・キシ》の尊称で呼ばれるようになっていた。

ひとつ例を挙げると、第9回オリンピック アムステルダム大会（昭和3年）の米国の選手団長は第二次世界大戦連合軍の司令官であり、戦後はGHQ司令官のダグラス・マッカーサーであった。マッカーサーは岸に次回オリンピック ロサンゼルス大会は、欧州から遠隔地のため参加国、選手が少ないのではないかと予測し、日本の団長だった岸に「ぜひ、日本の多くの選手をロスに送ってくれ」と要請した。これに岸は応えてロスアンゼルス大会に200名の選手団を送り、競泳種目など好成績をあげ、大会を盛り上げ成功に導いた。

米国の選手団長であったブランデー氏は、この日本の対応に深く感銘すると共に、岸が大会の一夜に開いた晩餐会の席上「大会は欧米のみに限ることなく、五大州全部で開催すべきである。日本はアジアで唯一の開催資格を持っている国である」との訴



12代松江藩主 松平定安



雨森精翁 田町「養生塾」



内村盧香 中原町「相長舎」



澤野修輔 雑賀町「培塾」



昭和 39 年 9 月 30 日 岸清一博士銅像復元
除幕式にて花束を手向けるブランデー会長

えに強く共感し、その勇気と決断力を称えた。以後、岸との親交を温めていった。

岸はロスアンゼルス大会の翌年亡くなり、はしたものの昭和 15 年の東京オリンピック招致に成功したが、結果として「幻の東京オリンピック」となった。

戦後、日本が国際社会に復帰した昭和 27 年、第 15 回オリンピック・ヘルシンキ大会への日本役員派遣へのパスポート等の便宜を図ってくれたのは、GHQ 司令官マッカーサーであった。



母堂とともに

復興の中で昭和 39 年の東京オリンピック招致運動を展開し、成功した。その陰には、IOC ブランデー会長の働きが大きかった。東京オリンピック開催前、岸清一銅像除幕式に忙しい中、出席し、岸との再会を果たし「東京オリンピックの開催は岸の偉業である」と述べ、岸の働きを大いに称賛した。

耐乏の中で育った岸は、世の中のためになるという志をいだき法曹界で実現させ確固たる位置を築いた。大きく育まれた力量は、国民の健康体力向上に尽くし、日本のオリンピックを世界と肩を並べるものにした。同時に郷里の山河、人への真心は、生涯を通じてなされた多様な社会貢献として強い郷土愛そのものである。出雲人の情味を充分に発揮し、至誠努力の人・岸清一先生ならではの歩みである。

岸が交流した、特に国際的に交流した人々から敬愛され、結んだ絆は昭和 39 年の東京オリンピック開催へと実を結び、スポーツだけではなく、多くの面で形を変えより良い働きをしている。彼の業績、精神を顕彰し、学んでいくことは意義あることと考える。

逸話をひとつ：GHQ 司令官ダグラス・マッカーサーは、執務室の机の引き出しに小泉八雲の著書を 1 冊忍ばせ愛読していた。また、彼の副官であるボナー・フエラーズは知日派で八雲への造詣も深く、日本人と天皇の関係をマッカーサーに説いた。

※「参った」の意味

岸は、昭和 8 年 10 月 29 日、岸育英事業の 1 期生であった医師 加藤英市氏の治療むなしく、喘息発作から、急性心臓麻痺に陥り、最後には唯一声「参った」と言われ、逝去された。

この「参った」という一語は、これまであらゆる多くの苦難を解決し、打ち勝ってきたという自信を持ってしても、天命に勝つことはできないという自覚から、天命に従っていかうという「スポーツマンシップ」「フェアプレイ」の言葉であったと思う。

2019(令和元)年度「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名

近畿双松会は有志の皆様のご支援により運営しています。ここにお名前を記して御礼に代えさせていただきます。
(令和2年3月16日現在：敬称略)

・中68期	荒 銀 昌 治		田 中 英 明		川 上 克 彦
・高1期	飯 塚 満 男		伴 稔 也		木 村 修 芳
	伊 藤 雅 義		逸 見 充 宏		小 泉 勝 是
	宇 藤 二 男 丸		山 岡 裕 明		木 幡 晃 正
	荻 田 運 三 郎		安 部 裕 子		古 川 幸 孝
	喜 多 川 治 美		片 岡 芙 美 子		宮 原 琢 郎
	竹 内 一 郎		木 村 八 重 子		三 好 洋 二
	林 原 信 光		佐 々 木 悦 子		森 山 國 久
	和 田 亮 介		佐 藤 早 智 子		岩 崎 文 江
・高2期	久 保 田 幸 雄		清 水 良 子		齋 藤 丸 子
	作 野 宏	・高10期	面 白 紘	・高15期	三 島 幸 子
	成 合 茂 博		佐 藤 菁 治		安 達 和 彦
	堀 江 眞 三 人		佐 和 田 丸		金 坂 喜 好
・高3期	兼 清 久 子		清 水 義 男		佐 藤 修 介
	緒 形 公 士	・高11期	清 水 小 枝 子	・高16期	真 庭 功
	佐 藤 藤 芳		押 田 良 樹		井 上 伸 久
・高4期	小 川 伸 江		神 門 英 明		梅 木 隆 志
	泉 寛 治		後 藤 武 久		神 田 俊 之
・高5期	藤 原 小 夜 子		田 中 一 男		清 原 正 義
	板 垣 衛 武		野 津 丞 稔		佐 々 木 康 雄
	築 武 夫		畑 田 稔		土 田 和 男
・高6期	山 根 徹		村 尾 俊 治		坪 倉 司 郎
	荻 野 克 彦		池 尻 和 子		松 本 耕 司
	田 村 稔 久		今 井 洋 子		三 成 宏 二
	永 江 秀 一		中 尾 長 子		森 藤 哲 章
	森 岡 敏 眞	・高12期	中 川 陽 子		伊 藤 育 子
	石 原 綏 子		萩 野 貫 悟		田 中 由 美 子
・高7期	島 田 和 子	・高13期	森 倫 也		中 安 節 子
	青 戸 俊 夫		安 部 正 毅	・高17期	西 村 幸 子
	高 井 和 彦		今 井 勝 治		山 田 敬 子
	寺 本 好 弘		桑 原 洋 史		岡 久 夫
	廣 政 俣 彦		深 澤 千 栄 子		後 藤 研 三
	山 本 雅 昭		藤 田 ト ク 子		永 井 貞 泰
・高8期	泉 桂 子		水 野 明 代		岩 本 眞 左 子
	黒 田 牧 夫		森 脇 順 子		木 島 光 子
・高9期	山 崎 杲		八 板 洋 子		島 本 妃 早 美
	影 山 武 男		山 下 俱 子		西 野 や よ い
	神 仁 人	・高14期	片 山 伸 雄		松 井 芙 美 子
	澄 川 光 成		加 藤 巡 一		山 口 悦 子

・高18期	石賀誠一郎 太田善博 小田一美 桑原勇 稲生喜子 白神知都子		近藤文雄 松本潤 森脇泰雄 和田邦孝 今西桂子 越野玲子	・高29期	石橋敏幸 太田春樹 山本修司 須藤聖子 浜野則子 廣瀬弘美
・高19期	岩田一志 佐々木勇 新見泰朗 榎原隆 万波迪義 元栄徹 池田喜美代		小松久美子 橘千里 内藤みよ子 西村充子 松本幸子 山口紀子 葭田久美子	・高30期	養田久美子 杉原伸治 吉城多恵 小林満 穴道弘志
・高20期	大久保章子 小数賀健二 金見幸夫 浜見良樹 原田康二 渡辺悟 佐野和子 平田まり 三好資子 物種慶子 山寄麻里子	・高24期	伊藤澄夫 岩間令道 吉城聖顕 徳田完二 吉岡秀文 小川ひとみ 河村敦子 瀬戸口二三子 西田悦子 水野順子 増本登	・高31期	田黒公司 柳井利明 富岡幸子 今宮一正 森口次郎
・高21期	野津一雄 花田幸久 内村昭 作野国夫 実重祐二 内藤善夫 永瀬光一郎 村田貢 大浦綾子 大濱緑 木山洋子 鶴羽孝子 西村紀子 松下和子	・高25期 ・高26期	小川ひとみ 河村敦子 瀬戸口二三子 西田悦子 水野順子 増本登 伊藤博之 川谷徳彦 周藤達夫 福岡則博 松村聡 井山裕子 前羽香江 矢野美紀子 三浦清 木田京子 新宮富美子 松浦恵子 松田稚子 勝部敬 山元香代子	・高32期	浅沼吉正 田黒公司 柳井利明 富岡幸子 今宮一正 森口次郎 長谷川浩之 安達宏昭
・高22期	作野国夫 実重祐二 内藤善夫 永瀬光一郎 村田貢 大浦綾子 大濱緑 木山洋子 鶴羽孝子 西村紀子 松下和子	・高27期		・高33期 ・高35期 ・高36期 ・高38期 ・高43期	
・高23期	朝比奈博則	・高28期			

以上214名(昨年231名、△17名)
(昨年は60周年記念事業年)
(ご不審の点は事務局までご確認ください)

追 悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(平成30年12月2日総会以降、事務局にご連絡のあったすべてを掲載しました)

物故会員

期	氏 名	ご逝去年月日
中68期	竹 内 昭 雄 様 (尼崎市)	令和元年 5 月 4 日
中68期	山 本 祥 夫 様 (川西市)	不明
中69期	杵 築 武 彦 様 (堺市)	令和元年 8 月21日
高 3 期	永 井 彰 様 (大津市)	平成 30 年11月22日
高 7 期	板 倉 恒 雄 様 (神戸市)	平成 31 年 1 月24日
高17期	石 川 敏 郎 様 (枚方市)	令和元年
高19期	福 野 博 様 (京都市)	平成 31 年 3 月 4 日

「事務連絡」「近畿双松会からのお願い」

～ 近畿双松会メールマガジンと、LINE @を受信ください ～

近畿双松会は、メールマガジン（以下MM）とLINE @（以下L @）で、総会や同好会行事、会員の活動紹介、松江北高校やふるさとに関する情報を配信していますので、ご参加、ご受信ください。（MMとL @は上記の配信に限定します。）

登録されたメールアドレス等の情報は、近畿双松会の趣旨・目的にかなう内容のみに使用し、MMの運用も専門業者と契約して個人情報の管理には万全を期します。



1. メールマガジンで受信する

メールアドレスの登録が必要です。（下記いずれかで登録ください）

①PC、スマホで、近畿双松会HP（「近畿双松会」で検索）のトピックス上部の「★メールアドレスの登録をお願いします★」から登録してください。

②または、スマホのQRコードアプリをお持ちの方は、右記から上記のページを読み込み、所定項目を記入、送信ください。



③上記①②で登録できない場合は、PC、スマホから、下記専用アドレスを直接入力して記入、送信ください。

⇒専用（送信元）アドレス：kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org

※【件名】には、「メールアドレス登録」と記入。

※本文には、①お名前（旧姓）と、②卒業期（卒業年）（以上、必須）、あと、任意で、③住所、④電話などを記入。

※：スマホでメールマガジンが受信できない場合、受信拒否設定をされたままの可能性もあります。

上記、専用（送信元）アドレスの受信を許容する設定にしてください。

※：スマホからの登録の方で、PCのメールもお持ちの方は、PCメールとの複数登録をおすすめします。

※：PC受信の場合、稀に「迷惑メール」に入っている可能性もありますので、チェックしてください。



2. LINE @で受信する

右記、QRコードから登録ください。

MMと同一の情報がL @からも受信できます。

スマホでの受信が便利の方は、ぜひL @を利用ください。



※トークから、①お名前（旧姓）と②卒業期（卒業年）を入れると登録されます。

（注）MMとL @は、両方で登録でも、どちらか一方でも結構です。

2019(平成31・令和元)年度 諸行事報告(骨子)

詳細とカラフルな写真はぜひホームページをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

■第11回 落語鑑賞会

日時／平成31年3月16日(土)13時～16時

会場：「天満天神繁盛亭」

今回は昨年に続き、天満天神繁盛亭での開催となりました。参加者は過去最高の32名となりました。

演目は古典、新作落語に加え、無声映画、漫才とバラエティに富み、笑い続けの3時間になりました。笑いは心身の健康に効果があるといわれていますので、良い薬になりました。

引き続き、半数以上のメンバーは、近くのお馴染みの居酒屋「へそ」へ場所を移し、楽しい歓談のひと時を過ごしました。

◆参加者は下記の32名(敬称略)

神田田鶴子(2) 田村稔久・石原綏子&ご友人(6) 清水良子&ご主人(9) 田村廸子・押田良樹・後藤武久・村尾俊治(11) 萩野貫悟(12) 加藤巡一&奥様・小泉勝是(14) 梅木隆志&奥様・佐々木康雄・松本耕司&奥様・葭田知徳・森藤哲章・土田和男(16) 岡久夫(17) 三好資子・山寄麻里子(20) 大浦綾子・大浜緑・木山洋子(22) 西村充子・葭田久美子(23) 瀬戸口二子(24) 竹谷獎(近畿松江会)



■第4回 北高野球部大阪遠征試合の応援

日時／平成31年3月29日(金)30日(土)

会場・対戦相手／29日：対八尾高校(2試合)

／30日：対北野高校(1試合)

例年、選抜高校野球開催の時期、北高野球部は2泊3日の日程で大阪に遠征、初日は甲子園での観戦、2・3日目は大阪の高校と練習試合を行っています。



今回の一日目の対戦相手である八尾高校は、21世紀枠の候補にも選ばれた実力校で相手がレギュラー中心で臨んだ第1試合は2-10で敗れ、控え中心の第2試合は6-3で勝ち、1勝1敗の結果となりました。

二日目の北野高校は、北野の猛打が爆発し1-12の悔しい敗戦となりました。

この経験が、技術面のみならず生徒諸君の将来に大きなプラスになることを期待します。

◆参加者は下記の6名(敬称略)

押田良樹・田中一男(11)、梅木隆志・佐々木康雄・松本耕司(16)、夏川一輝(17)



左から押田、来田良博監督、松本、夏川、梅木、田中
※なお、これを企画、実施された来田先生が、その後、飯南高校に転出され、今年の第5回目はありませんでした。長年、有難うございました。

■第43回 ゴルフコンペ

日時／令和元年5月23日(木)

会場／武庫ノ台ゴルフコース

木村恵吉さん(ゲスト)が初V！

令和最初となった第43回ゴルフコンペは、5月23日、お馴染みの武庫の台ゴルフコースで14名が参加して開催されました。



この日は雲一つない文字通りの五月晴れの日となり、新緑の中、気持ちよく、新しい時代を感じながらプレーすることができました。

ダブルペリアでの熱戦の結果、ゲストの木村恵吉さんがグロス96、ハンディ20.4、ネット75.6の成績で初優勝しました。2位は佐野和子さん(20)がグロス100、ハンディ24.0、ネット76.0で、3位は最年長の客野伸さん(5)でグロス99、ハンディ22.8、ネット76.2でした。1位から3位までは0.6打の僅差でした。

◆参加者は下記の14名(敬称略)

客野伸(5) 寺本好弘・廣政俣彦(7) 田中英明・木村八重子・佐々木悦子(9) 押田良樹・畑田稔(11) 梅木隆志・松本耕司(16) 小敷賀健二・佐野和子(20) 伊藤征治・木村恵吉(ゲスト)



■第14回 文楽鑑賞会

日時／令和元年7月21日(日)午後2時～5時40分

会場／国立文楽劇場

担当／鶴羽孝子(22)

報告者／押田良樹(11)

演目／「仮名手本忠臣蔵」五段目：山崎街道出会いの段、二つ玉の段、六段目：身売りの段、早野勘平腹切の段、七段目：祇園一力堂茶屋の段



今回は文楽三大名作の一つである「仮名手本忠臣蔵」の五段目～七段目を鑑賞しました。

「仮名手本忠臣蔵」は元禄時代に起こった有名な赤穂事件を題材にし、直接の政道批判を避けるため時代を南北朝時代に設定し、吉良上野介は足利尊氏の重臣、高師直とし、浅野内匠頭は塩谷判官高貞(作品では高定)を当てています。

いつものことながら、現代では理解しがたい、あの時代の「忠義」という価値観。それと、これは現代も変わらぬ「金」という厄介なもの。このふたつのために、引き起こされる数々の悲劇。生き方の下手な早野勘平の悲惨な最期、おかるの不幸。救いは、どうしても義士に加わりたい足軽身分の平岡平右衛門の忠義一徹を認めた大星由良助という人物の寛容さでした。このあたりも庶民の喝采を浴びたところだと思います。

ところで、なぜ題名に「仮名手本」がつくのか気になるところです。ひとつは義士の人数が47人、仮名が47文字であることから、義士団を仮名47文字になぞらえたのだと言われていることは理解できます。ではなぜ「手本」なのかということになりますが、はっきりした説明に出会っていません。そこで想像するのは、いろは歌が仮名を習う時の手本であったことから、同じように四十七士は武士の手本であることを言うためだったのではないかと

ということです。仮名47文字がいろは歌を紡ぎだし、手習いの手本になったように、四十七士の一人一人がそれぞれの役割を果たして、文字通りワンチームになって至高の価値である忠義を成し遂げた、武士の手本だということをこの題名に込めたのではないのでしょうか。

加えて、「いろはにほへと」を7文字ごとに区切って最後の文字を縦につなぐと、「とか(咎)なくてし(死)す」となり、立派な政道批判が隠されているという説があります。果たして当時の庶民が、そのことを知っていたのかどうか分かりませんが、昔の人はいろいろ考えるものだと感心します。なお、47と言えば、人形浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」が初めて公演されたのは、松の廊下の刃傷事件から47年後だそうです。これも不思議な因縁です。

もう一つ、ところで、です。作品で浅野内匠頭に擬せられている塩冶(エンヤ)判官高貞は、中央から派遣された出雲の守護の家系ですが、先祖佐々木氏(近江源氏嫡流)が古くからの出雲の地名である「塩冶」(現、出雲市塩冶町)を名乗るようになったとのこと。言わば郷里の英雄の一人であり、母校の応援歌のひとつ「ゆけやゆけ」の一番に「高貞が天馬ものかは」とあるのは高貞が、朝廷に一日に千里を行く名馬を献上したという故事からのものです。皆さんご存知でしたか。

◆参加者は下記の20名(敬称略)

田村稔久(6)木村八重子・佐々木悦子・清水良子(9)
押田良樹・田村廸子(11)加藤巡一ご夫妻・小泉勝是(14)
土田和男・松本耕司(16)三好資子ご夫妻(20)大浦綾子・
鶴羽孝子(22)小松久美子・西村充子・葭田久美子(23)
前羽香江(26)松岡茂(ゲスト)



■第13回歴史ウォーキング

日時／令和元年10月27日(日)
場所／東福寺・即宗院、伏見一带
担当／三好資子(20)

歴史ウォーキングは、その年のNHK大河ドラマの主人公にゆかりの地を訪れるのが恒例になっており、昨年は「西郷どん」でしたので、西郷隆盛にゆかりの地として、京都東福寺の塔頭の一つであり、隆盛が僧月照と討幕の密議をこらしたという薩摩・島津家の菩提寺である即宗院を訪ねることになりました。



薩摩藩 524 名の「東征戦亡の碑」(西郷隆盛書) 参拝

即宗院は通常は公開されていませんが、以前、東福寺の宗務総長を務めておられた5期の青木謙整氏(平成30年7月ご逝去)のご縁からご了承をいただき、担当の三好資子副会長(20)が2度も下見をして満を持していたところ、何と開催予定日の9月30日に台風が接近し、残念ながら中止とせざるをえなかったというのが前年の顛末でした。

そして、今回、故青木先輩のご厚意に報いるためにもと、再チャレンジしたところ、願いが通じて好天に恵まれ、予定通り、東福寺・即宗院、そして伏見界限を楽しく散策し、2年越しの念願を果たすことができました。

担当の三好さんご苦心の見事な行程は下記のとおりでした。

◆当日の行程

・午前のコース：京阪本線「東福寺駅」前 即宗院 東福寺(本堂・禅堂・東司・三門) 京阪「鳥羽街道駅」・

(電車で)・京阪「伏見桃山駅」 御香宮神社 黄桜カップカントリー(KKC) 昼食: 於KKC
・午後のコース: KKC 寺田屋 龍馬・お龍のブロンズ像 十石舟乗船場(舟には乗らず) 長建寺 月桂冠大倉記念館 解散

◆参加者は下記の30名(敬称略)

田中英明・佐々木悦子・木村八重子(9) 押田良樹・後藤武久・田中一男・村尾俊治(11) 萩野貫悟(12) 安部正毅ご夫妻(13) 小泉勝是・古川幸孝・三島幸子(14) 梅木隆志・土田和男・松本耕司・森藤哲章ご夫妻・田中由美子(16) 岡久夫(17) 三好資子ご夫妻・山寄麻里子(20) 大浦綾子・木山洋子(22) 近藤文雄・小松久美子・山口紀子・葭田久美子(23) 廣瀬弘美(29)



即宗院山門前

■第9回「里山歩くぞ!」ハイキング

日時/令和元年11月10日(日)
コース/ JR 福知山線廃線敷 (生瀬～武田尾間)
担当/ 松本耕司(16)

今回は、直前まで令和命名に因んで奈良・橿原市内の「万葉歌碑めぐり」の方がいいのではと悩み、奈良在住の森藤哲章さんご夫妻・田中由美子さん(16)の協力を得て下見までしましたが、結局こちらに決めました。

悩んだ主な原因は、こちらの「5km・2時間半」というのは余りにも短いのでは?ということでしたが、なんとほんとにほぼ適当な距離で、わが身の衰えを少しばかり感じた一日でした。

それにしても当日は秋晴れにも恵まれ、武庫川上流の溪谷の景色を十分に楽しみ、六つのトンネルの

中を懐中電灯で歩く冒険気分も味わいました。福知山線のスピードアップのための大工事で廃線になったこの区間は、間違いなく昔はここを通過して松江との間を往来していたのだと、枕木の上を不思議に感じながら歩き、往時を偲んだ次第です。

人気のコースらしく日曜日ということもあって家族連れや多くの団体が賑わい、昼食の場所選びもままならないほどでした。

また、当日は新天皇・皇后両陛下の「祝賀御列の儀」と同日になるなど、記憶にも残る記念すべき「御列ハイキング」になりました。

打ち上げは、梅木隆志さん(16)のナビで梅キタの地下まで足を伸ばしましたが、その後、御堂筋のルミナリエ見物に出かけられた方もあったとか、皆様終日、お疲れさまでした。

◆参加者は下記の21名(敬称略)

田中英明・佐々木悦子(9) 押田良樹・後藤武久・村尾俊治(11) 小泉勝是・古川幸孝・宮原琢郎・三島幸子(14) 梅木隆志・松本耕司・森藤哲章ご夫妻・田中由美子(16) 新見泰朗(19) 三好資子・山寄麻里子(20) 大浦綾子・木山洋子(22) 山口紀子(23) 今西亜子(43)



■2020(令和2)年度 有志新年懇親会

日時/令和2年1月11日(土)
会場/ 曾根崎「がんこ」本店

事務局会議にご参加いただいている役員や、行事や総会にご参加をいただいている方などにランダムにお声かけし、ご都合のつく方々にお集りいただいて、テーマはなしで「お気楽放談会」と称し、ひた

2019(平成31・令和元)年度 諸行事報告(骨子)

すら新年を祝い、お互いの健闘を誓い合いました。

◆参加者は下記の16名(敬称略)

押田良樹・田中一男・村尾俊治(11)小泉勝是・古川幸孝(14)梅木隆志・土田和男・松本耕司・森藤哲章(16)池田喜美代(19)小敷賀健二・三好資子・山崎麻里子(20)松本潤(23)宍道弘志(31)富岡幸子(35)



中でも大先輩の堀江眞三人さん(2)が初参加、神田田鶴子さん(2)も連続ご参加をいただきました上に、噂を聞いての懐かしい松江からのご参加もあるなど、本当に順調な広がりを感じました。

後日いただいた皆さんからの感想メールでも大満足しておられる様子うかがえ、また、各新聞の劇評でも力作としてベタ褒めの状態で、これは新年早々大変なものを観たのだと嬉しくなっていました。

終日、様々にお手伝いくださった前羽さん(26)今西さん(43)本当にありがとうございました。

「ワンス アポン ア タイム イン アメリカ」は、ロバート・デ・ニーロ主演でご承知のギャング映画をミュージカル化したものです。

◆第3回「宝塚歌劇鑑賞会」

日時／令和2年1月19日(日)

場所／宝塚大劇場(雪組公演)／『ワンス アポン ア タイム イン アメリカ』～セルジオ・レオーネ監督による同名映画(1984年公開)の世界初のミュージカル化《主演》望海風斗 真彩希帆 脚本・演出／小池 修一郎 担当・報告／大浦綾子(22)

第3回を迎えた「宝塚歌劇鑑賞会」、毎回新しいお顔も増え、いよいよ楽しい鑑賞と語らいの場となってきました。



マンハッタンの場合で育つユダヤ移民の少年(主人公はヌードルス、相方はマックス)たちが、禁酒法の時代に非合法の世界に身を置き、それぞれの才覚で、強いものに利用され、また利用しながら闇社会でのし上がり、やがて落ちて行く過程が、一拍のずれも許さないまるでオーケストラの交響曲のような見事な場面転換の中で、観衆をぐいぐいと引き込んでいきました。

勿論、そこには幼馴染みで初恋のデボラも懸命に生きるヒロインとして登場。やがてくるヌードルスとマックスのわかれと、さすがに宝塚の舞台には醜さのかけらもないけれど、哀しさだけは十分に伝わってきました。

最後は、ヌードルスに自分を殺してほしいと頼むマックス。それを拒むヌードルス。罪深い行為も悲惨な環境も捨象されて、二人の哀しいひたむきさだけが浮かび上がる・・・これこそ「宝塚」なのだと納得したのでした。

それは終盤のレビューにも集約され、最後に主演の望海風斗の大きな背負い羽根を目にしたときは、目頭に熱いものまで感じていました。

某新聞は「裏社会の人生 恋情豊かに」と評しましたが、まさにそのとおりの公演でした。

打ち上げとなった遅い昼食会では、お屋敷風の「がんこ宝塚苑」のお庭をたっぷり楽しみながらその余韻にひたりました。来年も必ず参加しましょうと気炎をあげながら。

女性の参加が多いのは当然として、一度ご覧になった男性は、皆さんとりこになっておられます。どうぞ来年は多数の男性の皆さんのご参加もお待ちしています。

◆参加者は下記の32名(敬称略)

堀江眞三人・神田田鶴子(2)佐々木悦子(9)押田良樹・今井洋子(11)齋藤丸子(14)松本耕司・森藤哲章ご夫妻(16)小田一美ご夫妻(18)佐野和子・三好資子(20)大浦綾子・大浜緑・鶴羽孝子(22)小松久美子・西村充子・松本幸子・山口紀子(23)瀬戸ロ二三子(24)小林宏・京子(25)前羽香江(26)・千葉潮・井上千哉子(松江)・吉城多恵ご家族(松江)(30)今西亜子(43)楠本紀子&ご友人(ゲスト)



■2020(令和2)年度 役員会

日時/令和2年2月29日(土)

会場/中央電気倶楽部

会則第8条に則り、令和初の役員会を開催し、2019年度の事業、収支状況の報告、2020年度の事業方針についての意見交換をおこないました。

昨年度の総会参加者が100名の大台を確保できたこと、また、次代への取り組みの基礎となる「SNS」への取り組みが、メールマガジンで300名、LINE@で30名を超える発信体制が構築できたことを成果として確認しました。

新しい年度では、この「SNS」発信を中心に、なお一層中堅・若手年代への呼びかけを強化すること、65周年をめざして収支管理に力を注ぐことなどを大きな方向として確認しました。また、当面3月の落語鑑賞会での「新型コロナウイルス感染」問題への対応も協議しました。

新年度の細部の実行にあたっては、次回の事務局会議の論議に委ね、役員一同、心も新たに取り組むことを誓い合い、それぞれ近況を報告して懇親を深めました。

◆参加役員は下記の20名(敬称略)

【常任顧問】押田良樹(11)【会長】松本耕司(16)【副会長】梅木隆志(16)三好資子(20)松本潤(23)【監事】鶴羽孝子(22)【常任幹事】加藤巡一(14)金坂喜好(15)土田和男(16)岩田一志(19)山崎麻理子・小敷賀健二(20)大浦綾子(22)【幹事】堀江眞三人(2)田村稔久(6)面白紘(10)萩野貫悟(12)池田喜美代(19)徳田完二(24)周藤達夫(26)



■ 16期 (S40卒) 近畿同期会

日時／令和元年6月8日(土)

会場／がんこ曾根崎本店

報告者／梅木隆志(幹事)

一年ぶりの開催は38名に案内をし、昨年より3名多い12名の出席となった。日程の都合による欠席連絡もあったので、来年は15名の出席をめざしたい。久しぶりに女性(山田さん)の出席もあり楽しい会となった。

加えて、昨年は99%飲食が終わった支払い直前に、ガス漏れが発生して緊急避難したことからお支払いはご無用に、とのお店からの有難いご連絡をいただき、本年は事実上無料での一粒で二度美味しい開催となり、心、真に広やかな会となった。

今年はそれぞれの会話が弾み、近況報告も一部の人のみとなったが、例年以上に楽しい会となった。

二次会は7名の参加で、さらに懇親を深めたが、酔いもすすんで二次会に参加できない人もあらわれた。これからは一年一年、とにかく元気で顔を合わせることが一番大事なことだと、あらためて感じた同期会となりました。

◆参加者は下記の12名(敬称略)

〈前列左から〉松本耕司・山田敬子・車野巧悦・土田和男・森藤哲章〈後列左から〉梅木隆志・三成宏二・神田俊之・森光雄・佐々木康雄・三吉孜・坪倉司郎



■ 22(理1)期 (S46卒)

関西同窓会有志「春の集い」

日時／平成31年4月20日(土)

会場／梅田「がんこOS店」

報告者／鶴羽孝子

数日前までの花冷えも過ぎ去り、春真っ盛りの陽気となったこの日、有志12名が梅田に集いました。

今回は関西メンバーに加え、愛知県在住の寺本さんが初めて参加され、新鮮な空気が吹き込まれました。あらためて一人ひとり自己紹介し、春の御膳をいただきながら、近況報告や思い出話に花が咲きました。

一昨年は東京同窓会との交流が実現し、今回は東海ともつながりました。関東、東海、そして松江へとつなげる次の展望が見えてきました。

⇒S46年卒関西同窓会ホームページ

<http://tsuruha.net/kitako>

◆参加者は下記の12名(敬称略)

石川章・内村昭・太田朗夫・大浦綾子・木山洋子(平田)・倉橋勉・鶴羽孝子(石橋)・内藤清志・永瀬光一郎・西村紀子(松本)・村田貢・寺本和義(愛知県)



■ 23(理2)期(S47卒)関西地区同窓会

日時／令和元年4月20日(土)

会場／京都(石峰寺・伏見稲荷大社・四条)

報告者／松本潤

1995年にスタートしました関西地区同窓会も25回を迎えました。昨年4月20日に京都で開催。毎年の恒例で昼一番にオプションツアーから始まりました。

プログラムは以下の通りです。

・オプションツアー：18名

JR稲荷駅前に集合。石峰寺の見学と裏にある伊藤若冲制作の五百羅漢巡り。若冲のお墓にもお参りました。

幹事の西村充子さんの名解説に一同感銘を受けました！！

外国人人気スポットNO1の伏見稲荷大社では山巡りも体験。修学旅行気分を満喫しました。

・一次会：25名 二次会：12名

大正5年創業の老舗洋食レストラン「菊水」(南座正面)で一次会、二次会を開催。東京・静岡・広島からも5名が参加され、近況報告から懇親会と大いに楽しみました。

今回は神戸地区が幹事役で今年4月18日に開催予定です。

◆参加者は下記の25名(敬称略・50音順)

秋鹿肇・朝比奈博則・粟谷洋・扇澄美子(立石)・大島厚子(三浦)・岡田幹夫・後藤和彦・小松久美子(樋原)・近藤文雄・忠井俊明・橘千里(小倉)・西村充子(平野)・花田文子(牛尾)・松本幸子・松本潤・森脇泰雄・山口紀子(宮崎)・葭田久美子・和田邦孝・渡辺都(野坂)・(東京)足立潔・竹内淳・山崎徹・(静岡)漆畑多恵子(林)・(広島)北川明宏



〈 23(理2)期 学年全体同窓会 〉

日時／令和元年7月6日～7日(一泊二日)

会場／玉造温泉「松乃湯」

参加者／83名



〈 23(理2)期 折にふれてミニ同窓会 〉

①奈良ハイキング

日時／令和元年11月6日(水)

参加者／6名：小松久美子・近藤文雄・橘千里&ご親戚・扇澄美子・山口紀子

好天に恵まれました。同時にはなかなか難しいと言われる興福寺の南円堂・北円堂の両方の国宝菩薩様を拝顔することができました。帰りには正倉院展にも足を延ばし、充実した楽しい一日となりました。



②京都「洛趣会」相国寺

日時／令和元年11月4日(月)

参加者／5名

紅葉映える秋の京都、臨済宗大本山「相国寺」にて京都の老舗が年一回開催する展示会「洛趣会」に参加しました。珍しい昔の地図や焼き物等、逆に最新の自信作品の展示があり、旧交を温めながらの貴重な一日となりました。

■ 26 (理5) 期 (S50 卒) 近畿同期会

日時／令和元年5月26日(日)
会場／レストラン「ヴェルデカッサ」
報告者／周藤達夫

昨年の近畿双松会で同期を集めて春に花見会をやるという相談がまとまり、5月26日13時からホテルヴィスキオ大阪の1階レストラン「ヴェルデカッサ」で、4名の初参加を加え、13名での賑かな集いとなりました。

二次会にも全員がくり出し、17時過ぎまで盛り上がりました。

◆参加者は下記の13名(敬称略)

(初) 岩谷智志・米井美子・加藤茂樹・吉田知子
(2回目) 岩崎範樹
(常連) 井山裕子・矢野美紀子・伊藤博之・福間則博・川谷徳彦
(声かけ) 前羽香江・松村聡・周藤達夫



■ 31 (理10) 期 (S55 卒) 北高@関西

日時／令和2年2月15日(土)
会場／魚Italian & Oyster wharf
報告者／宍道弘志

31期の同期会は2017年から毎年冬に開催しています。今回で4回目となり、既に定着した感があります。毎回、遠方からも参加してもらっていますが、今回は関東から1名の参加がありました。夕方6時にスタートし、二次会を含めて終電の時刻まで、それぞれの近況や、高校時代の話題で盛り上がり、近畿双松会のことも話題に上りました。

写真は上手く撮れていませんが……

◆参加者は下記の13名(敬称略)

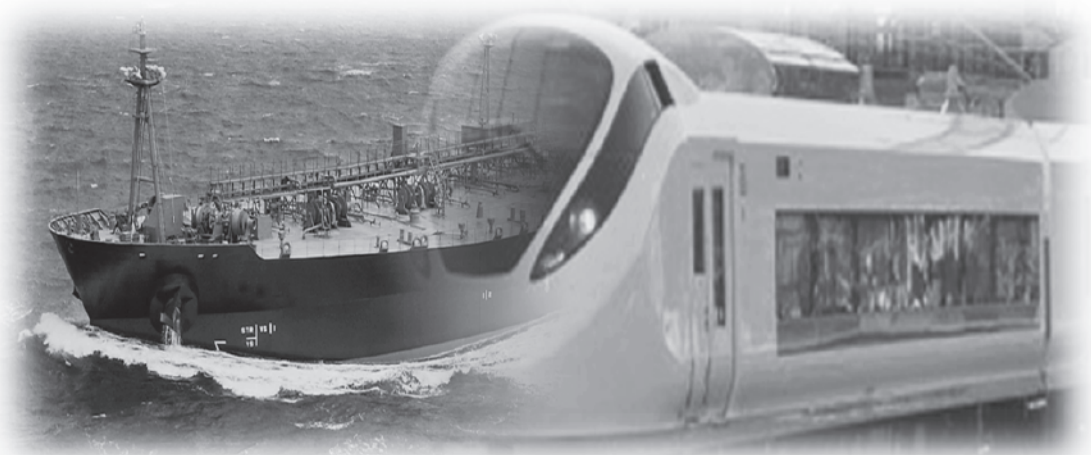
井川恵里(森口)・岡田ちはる(三田)・小林 満・宍道弘志・戸谷徳寿・中倉行彦・藤井健志(横浜から)・藤原智子(加藤)・前島明弘・矢倉和恵(玄行)・安井裕彦・山本二教・若林武徳



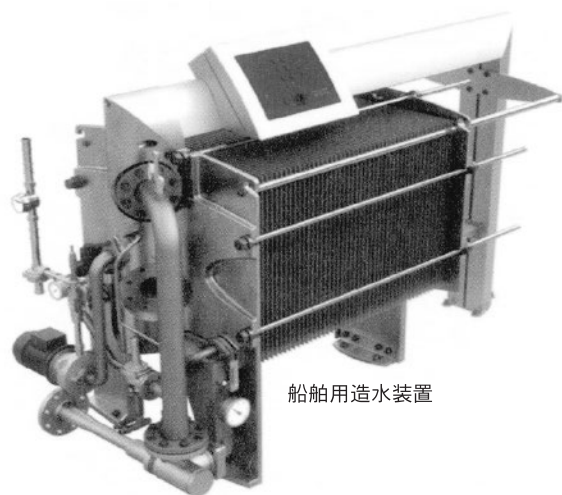
同期皆さんへのメッセージの場として、今後も開催のつど情報をお寄せください。

同期会は双松会の“核”となる集まりです。双松会総会の個別テーブルも利用して、ミニ同期会を開催ください。

《鉄道車両、船舶、産業機器、ソリューション》



イメージ画像



船舶用造水装置



LEDリモコン
サーチライト



鉄道車両運転台

株式会社
トヨーコーポレーション
TOYO & ENGINEERING CORP.

本社/〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35 Tel.06-6443-2061 Fax.06-6443-9736
東京支店・豊中工場

会員近況報告

この近況報告は、昨年の総会の出欠回答時(9～11月)を中心として、昨年の会報発行以降にお寄せいただいた近況を加えて構成しました。半年前後の時差がありますこと、ご承知おきください。

中68(昭23卒)荒銀昌治

一応元気で日常生活を送っていますが、用心のため一人での外出は控えています。ご盛会を祈ります。

高1(昭25卒)宇藤二男丸

体調不良で諸行事は欠席しています。

高1(昭25卒)喜多川治美

やもめ暮らし15年を経て老人ホームに入り、米寿を迎え日本尊厳死協会に入会しました。

高1(昭25卒)田端要子

同年代の方がいらっしゃらないので、欠席させていただきます。

高2(昭26卒)久保田幸雄

ご返事が遅れましたが、2月下旬から入院。退院して5月1日から自宅療養中です。体調変化多く、医師から要治療を言われたので、申し訳ありませんが欠席させていただきます。

高2(昭26卒)神田田鶴子

ご案内いただき、有難うございました。常々お世話になり心より感謝いたしております。私用で娘のところに出かける予定がありまして、誠に申し訳ありませんが欠席させていただきます。よろしくお願いいたします。

高2(昭26卒)兼清久子

総会でご盛況でありますよう祈ります。

昭和20年4月大阪府立桜塚女学校入学、昭和26年松江高校卒業です。元気ですが知った人がいませんので欠席します。

高4(昭28卒)藤原小夜子

春でもないのに草々は元気に空とおしゃべりし

ています。足の具合が悪く欠席しますが「出雲弁トーク」、いいですね。

ずっと前、松江に行ったら図書館へ行って出雲弁の本を読みたいと思って電話で聞いたところ、そういう本はありませんとのことでした。

大阪で暮らしても、心はいつも松江で、ズーズー弁も楽しい心の支えです。

高5(昭29卒)築 武夫

高齢(84歳)になりましたが、健康に生活しております。

高6(昭30卒)森岡敏眞

11月の末頃の連休にはどの地域でも行事が多く、また家庭的には旅行や里帰り等と重なることが多いようです。

年一回の総会なので楽しみもあり、期待していたのですが、別の予定が入ってしまいました。残念に思っています。残り少ない人生なので余計悲しい思いです。

「60周年記念会報」の重みのある内容には感心、感動あるのみです。有難うございました。

高6(昭30卒)石原綏子

後期高齢者もいいところ…。時代の流れに逆らわず、でも翻弄されながら楽しんで、残り少ない余生を生きてます。

高7(昭31卒)寺本好弘

今年は、その日の都合が悪く出席できません。

高8(昭32卒)清水一夫

リタイヤして久しく、あまり外出しておりません。一応健康です。

高9(昭33卒)坂本隆男

懇親会で同期の小林氏の「出雲弁トーク」のサポート役を勤めます。

高9(昭33卒)田中英明

今回は同期の小林忠夫氏の「出雲弁トーク」を楽しみにしていましたが、松江での法事のため欠席させていただきます。

普段は、家庭菜園、月数回の植物観察、ハイキング、年数回のゴルフなどで過ごしています。

高9(昭33卒)逸見充宏

- ・NPO法人 北大阪経営支援マスタース 理事
- ・公益社団法人 関西吟詩文化協会 師範(8段)

高9(昭33卒)安部裕子

毎年、今年こそはと思いますが、今年も地区で関わっている団体の行事と重なってしまいました。来年はもう行けないのではないかと寂しい気がします。ご盛会を祈ります。

高9(昭33卒)佐々木悦子

お世話になります。

高10(昭34卒)面白 紘

久しぶりに墓参を兼ねて、山陰を旅行する予定です。(9月末)

高10(昭34卒)佐藤菁治

体調不良で、欠席させていただきます。

高10(昭34卒)佐和田 丸

数えて80歳になり、3人の子供、6人の孫らが傘寿のお祝いをしてくれました。

あちこち、具合の悪いところもありますが、一応元気ですごしています。盆、正月その他、時折帰ってきますが、そのたびに成長しており、よろこびとともに元気をもらいます。



長らく町人会、県人会などふるさと会にかかわり、町長賞、知事賞を受ける栄誉に浴する嬉しいこともあり。今後は、恩ある人に感謝し、謝意を表し、恩返しをしながら生を終えたいと思っているところで、今は、所有物の整理、葬式、墓その他、終活整理をしています。

余談ですが、長寿祝いは、数え年で、還暦60歳、古希70歳、喜寿77歳、傘寿80歳、米寿88歳、卒寿90歳、白寿99歳、百寿100歳、茶寿108歳、珍寿110歳以上、皇寿111歳、大還暦120歳と続くようです。あつどのような祝いをしてもらえるでしょうか。

・メール malu122@nifty.com

・HP <http://simane.do47.net/kadoya.html>

高10(昭34卒)清水義男

お蔭さまで元気でやっております。御盛会を心からお祈りいたします。

高10(昭34卒)清水小枝子

5月18日、ホーランエンヤの船神事に合わせて、松江で10期の同期会が開かれ、帰ってきました。105人の出席、今回で同期会はお開きになる・・・とのことで、名残り惜しくも楽しいなごやかなひとときを過ごしました。

高11(昭35卒)小久江良雄

諸事情のため、総会懇親会に出席できず残念です。次回を楽しみにしています。

高11(昭35卒)高本紘史(松江市在住)

毎回、案内をいただき有難うございます。参加できず申し訳ありません。

お蔭で毎日元気にやっています。松江に帰って18年になります。押田氏にはいつもお世話になり感謝です。

高11(昭35卒)湯川好満

丹波市氷上町で黒豆を中心に農作業を始めて17年たちました。

尺八仲間と演奏やボランティアの活動をしています。奈良民謡協会のお世話で、健康のため、伴奏や唄を楽しんでいます。

高11(昭35卒)新谷公子

写真集「愛しき人々」を発行(2017年)。

第二写真集として「愛しき故郷」を写真取材中です。雲南市を中心に情報をください。

高11(昭35卒)今井洋子

やっと総会に参加することができ、大変うれしく思っています。よろしくお願いします。

高11(昭35卒)長谷川宏子

元気にやっております。皆様によりしくお伝えくださいませ。

高12(昭36卒)景山精二

まだ生きております。“老い”と戦っています。

高12(昭36卒)萩野貫悟

毎回お世話になりまして有難うございます。大変楽しみにしております。(喜寿になりました)

高12(昭36卒)山本輝夫

ご盛會と、会員各位のご健康、ご多幸を祈念します。＜想定外の展開にビックリ！＞

昨年の「60周年記念誌」(編集注P76)に、辺見じゅん著『収容所から来た遺書』(文春文庫)を読んで、主人公の山本幡男先輩(中46期)に関する読後感を投稿したところ、なんとあの文藝春秋伝説の編集長高橋一清さんから松本会長にコメントがあったと

お聞きした。

曰く、「山本さんの文章に感銘を覚えた。山本幡男さんの話はいつも身を正す思いで心に受けとめている。この本が出た頃、世間の人は山本幡男が生まれ、学んだところを敬ったものだ。あの本を自分のいた出版部から世に送り出したことを今でも誇りに思う」と。

恐縮するとともに、真に有難く、亡き両親への土産はこれに勝るものはないと感激した。

文藝春秋は長年の愛読書だけに神のご加護かと感謝したが、なんと9月号の新企画「一城一食」の最初に松江城が登場、この上なく生まれ育った土地を誇らしく思った。同期のM君が松江城の名ガイドとのことなので、皆さんも是非足を運んでください。

＜夢のまた夢・・・＞

夏季休暇でイギリス・オックスフォード大学勤務中の三男が帰国した。天皇・皇后両陛下が同大学留学の大先輩なので、両陛下イギリスで訪問の際にもし同窓会があれば、会費を負担してでも出席して「当家子々孫々までの名誉に」と伝えて別れた。正夢になることを祈りつつ。

＜京都に住んで20年＞

ジム通いに、読書に、知的好奇心を満たしてくれる京都の街の徘徊にと、人生100年時代は“自助努力で”と挑戦中。“ボーッと生きてんじゃねえよ”とチコちゃんに叱られないよう、二度と来ない今日という日を“生涯”のつもりで生きようと。“だんだん”

高13(昭37卒)安部正毅

いつもお世話いただき有難うございます。今回は公務出張のため、欠席させていただきます。

現在は、業界関係の技術指導、大学の講義の間をつかって地域老人会の活動をさせていただいております。年とともに体力がなくなり、テニスができないのが残念です。

高13(昭37卒)桑原洋史

先日、ロシアのサハリンに行きました。日本領土時の樺太です。寂れた港町コルサコフ、中心都市ユ

ジノサハリンスクです。夏に行ったけど、北国です。
裸で日光浴をしている人が多くいました。

市場ではロシア語(キリル文字)しかなく、よくわかりませんでした。人が行かないところですので・・。

第二次大戦時の日本軍のタンクが陳列してある博物館がありました。“何でそんなところ行ったの？”と言われても、つい！

高13(昭37卒)原 良平

過日、7月7日、松江のホテル一畑にて高13期北高1期「北一会」の喜寿記念祝賀会が開催され、約140名が集いました。

高13(昭37卒)山下俱子

今年もお世話になります。よろしく願い申し上げます。

高14(昭38卒)川上克彦

変わりなく元気にやっております。

本年は所用で参加できません。またお会いできることを楽しみに！！

高14相当(昭38山口高校卒)小泉勝是

ボランティアで子ども達に科学の楽しさを教えたり、おもちゃづくりと一緒にやって楽しんでます。

高14(昭38卒)藤井淳一

ご盛会をお祈り申し上げます。

高14(昭38卒)三好洋二

娘の結婚式のため、欠席いたします。孫ではなくて娘です。本当に娘です。

高14(昭38卒)佐藤美代子

お世話、お疲れ様です。

近年、鎖骨骨折、足第3趾骨折と続き、年齢を感じております。

高14(昭38卒)新名貴久子

ご案内、ありがとうございました。

なかなか出席できませんが、いつか出席させていただきたいと思います。

高15(昭39卒)寄神道子

年に一回は、島根にお墓まいりに帰っています。

高16(昭40卒)荻田 治

昨年(2018)10月、救急搬送され、以来、入退院を繰り返しております。

松江の匂いをかいでみたいですが、今はおとなしくするのが第一かと思っております。

高16(昭40卒)清原正義(浜田・松江市在住)

申し訳ありません。総会当日は所用があって参加できません。ご盛会を祈ります。

島根県立大学学長も2年半が過ぎました。相変わらず浜田・出雲・松江を行ったり来たりしております。

高16(昭40卒)長野米一

病後につき、外出を控えています。

高16(昭40卒)長谷川賢治

白内障にかかり、手術しようかしまいか、考えています。

高16(昭40卒)松本耕司

5月にふるさと会である「近畿松江会」の会長になりました。望んだ訳ではありませんが頑張るしかありません。皆様のご支援をお願いいたします。

10月にはかけた覚えのない高額携帯電話代を払わざるをえないハメに陥りました。きっと、夜中に酔って？かけ、オフにしなかったのでしょう。携帯電話は「受けるもので、自分からかけてはいけない」と決意した次第です。

高16(昭40卒)三吉 孜

身体のおちこちを点検・修理しながら元気でやっています。

今年9月に初めて写真個展を行い、定年後に始めた写真活動の大きな節目になりました。

高16(昭40卒)森藤哲章

73歳になりましたが、医師としてまだ働いております。グループホーム・有料老人ホームで入所者の方や職員の方々に元気をもらったり、元気をあげたりして、楽しく勤務しております。

高16(昭40卒)西村幸子

残念ながら、地域行事と重なったため参加できません。ご盛会を心よりお祈りしております。

高18(昭42卒)森山和夫

誠に残念ながら仕事の都合があり、欠席いたします。盛会を祈念いたします。

高19(昭43卒)新見泰朗

11月10日、すばらしい好天のもと、里山ハイキング(JR福知山線廃線敷コース)に参加しました。生瀬～武田尾間の武庫川沿いの景色は大変すばらしく、良い休日を過ごさせていただき感謝いたします。

総会には、別の同窓会(同期会)があり、九州宮崎へ行くため参加できません。ご盛会と皆様のご多幸をお祈りします。

高19(昭43卒)横原 隆

いつもご案内、有難うございます。

高19(昭43卒)池田喜美代

ラグビーワールドカップに熱狂し、試合は放映されるものは全てみました。少しラグビーロスです。

高19(昭43卒)吉田恵子

昨年、夫と長女が同時期に入院、手術。今年も夫が二度目の入院中で多忙です。

高20(昭44卒)小数賀健二

お世話になります。

高20(昭44卒)金見幸夫

城陽市に住んで42年、すっかり此方の人間になりました。

孫を含む子どもたちを毎朝学校まで見送り、体育振興会では、年8回競技企画・運営をしています。

高20(昭44卒)山崎麻里子

昨年は双松会のメンバーと17日間、北欧・ドイツを旅しましたが、今年は次女親子と21日間、フィリッピンへ英語の親子留学に行ってきました。

フィリッピンは治安が悪く、娘と4才、9才の孫娘が心配で、仕方なくのフィリッピン行きでした。

が、結果オーライ！ 素朴で明るいフィリッピンの人と接して楽しい思い出ができました。

又、近い将来、行きたいと思っています。

高21(昭45卒)花田幸久

来年で卒業してから50年を迎えます。長い年月を感じますね。

高22(昭46卒)内村 昭

完全退職して2年になります。アルバイトしながら芸術(絵)を楽しんでいます。

高22・理1(昭46卒)金森佳憲

61歳で退職後、

・技術コンサルタントとして、企業顧問。

・NPO法人科学カフェ京都 理事。

高22(昭46卒)木下 孝

その日、先約の用事があり欠席させていただきます。申し訳ございません。

高22(昭46卒)内藤清志

今回所用のため出席できません。盛会をお祈り申し上げます。

高22 (昭46卒)大浦綾子

皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

高22 (昭46卒)大濱 緑

いつもお世話になり、ありがとうございます。残念ながら、今回は所用のため、欠席させていただきます。

高22 (昭46卒)佐藤松子

岸和田市の小学校教諭を定年退職後は、畑作業をしながら、のんびり暮らしております。

高22 (昭46卒)西村紀子

月日の経過とともにふるさとへの思いは募ります。当日を楽しみにいたしております。役員の皆様、いつも有難うございます。

高23 (昭47卒)朝比奈博則

毎年11月24日前後は、田舎の手伝いで帰省しています。1週間ずればいいのですが。

高23 (昭47卒)忠井俊明

クリニックを開業しています。認知症が専門です。

高23 (昭47卒)松本幸子

週四日の勤務になり、自由な時間を楽しんでいます。“やりたかったこと、やってみよう”

高23 (昭47卒)渡辺 都

ご盛会、祈念いたします。

高24 (昭48卒)吉城聖顕

島根大阪学生会館(館長)の行事のため欠席いたします。ご盛会をお祈りします。

高24 (昭48卒)小川ひとみ

昨年より、加西市に残っている戦時中につくられた“鶉野(ウズラノ)飛行場”のボランティアガイドのお手伝いをしています。また、北条鉄道のイルミネーション飾りつけも地域の方々と行っています。

その行事が11/24と重なり、今回は欠席します。

皆さんもぜひ“鶉野飛行場跡”にお越しください。

(編集注)“鶉野飛行場跡”は、太平洋戦争が悪化しはじめた頃、優秀なパイロットを養成するためにつくられた旧日本海軍の飛行場跡。

高24 (昭48卒)園山靖枝

初参加です。よろしくお願いいたします。

高24 (昭48卒)田島真澄

同期の河村敦子さんから何年も誘っていただいていたが毎年都合が合わず、失礼させていただいていました。今年はいよいよ都合がつかしたので、初めて参加させていただきます。

府立三国丘高校を最後に定年退職いたしました。その後府立岸和田高校での1年間の再任用を経て、現在は岸和田高校と三国丘高校で非常勤講師をしています。

高26・理5 (昭50卒)福島倫之(倉敷市在住)

今回初めて参加させていただきます。岡山からの参加です。ご案内いただき有難うございます。

高26 (昭50卒)坂本雅子

娘の結婚式の翌日のため申し訳ありませんが欠席させていただきます。

高26 (昭50卒)福富由美子

いつもご連絡いただき有難うございます。

24日は用事があり欠席させていただきます。来年こそ！

高26 (昭50卒)吉田知子

いつも連絡をいただきまして有難うございます。11/24、予定があり、残念ですが欠席させていただきます。

高27 (昭51卒)野口博也

大学卒業後、サントリーに就職し、40年近く大阪・京都・神戸で働いています。いろんなことをやり

ましたが、営業畑が一番長く、ワインの専任として特にホテル、レストランの営業が長かったです。

剣道は今も続けており、現在七段。ワインはシニアソムリエです。

高27(昭51卒)三浦 清

近畿双松会の益々の発展を祈念しております。

高28(昭52卒)赤井真一郎

今春、定年退職して東大阪の会社に転職しました。24日は予定が重なって参加できません。

高29(昭53卒)達山 暢(松江市在住)

9月22日、還暦同窓会を松江フォーゲルパークで実施。台風の接近する中、125人が集まり、親交を深めました。

高29(昭53卒)養田久美子

父の一周忌法要のため、欠席させていただきます。

高30(昭54卒)杉原伸治(松江市在住)

山陰合同銀行でまだ働いています。総会懇親会の盛会を祈念いたします。

高30(昭54卒)吉城多恵

先日は県人会にて皆様にお目にかかれて嬉しかったです。

盛会をお祈り申し上げます。皆様どうぞよろしくお伝えくださいませ。

高30・理9(昭54卒)千葉 潮(安来市在住)

大阪の住居を引き上げて、安来に帰りました。安来市加納美術館で業務執行理事を務めています。ご帰郷の折にはぜひお立ち寄りくださいませ。

高35(昭59卒)吉野 潔(北九州市在住)

平成30年より北九州市の産業医科大学へ単身赴任しております。

高36(昭60卒)今宮一正

現在、大成建設株式会社西日本営業本部に勤務しております。

高39(昭63卒)村上由香里

残念ながら欠席させていただきます。

高42(平3卒)三好博子

子育てが落ち着き、3年前から地元のマラソンサークルに入会しました。そこで、単身赴任で枚方に来られ、先に入会されてサークルの中心的存在だった8学年上の先輩にお会いすることができ、一緒にマラソンを楽しむことができました。

昨年、その先輩は東京に転勤になり、今はお会いする機会はありませんが、マラソンサークルの仲間として、また、北高の先輩後輩として、今でもFb等で親交は続いています。

こんな出会いが枚方であり、驚きました。

私自身は、主人の転勤で枚方に来て15年になります。知らない土地で、出産・育児を経験し、たくさんの人に助けてもらい、小学校のPTA役員をしたり、マラソンサークルに入会して、たくさんの友人ができました。

上の子が今年から中学生になり、少しずつ手が離れてきましたので、初めて総会に参加いたします。また、下の子(小5)が野球が大好きなので、北高野球部の大阪遠征がありましたら、是非応援に行きたいと思っています。

高51(平12卒)荒井悦加(境港市在住)

8月に第2子(次女)が誕生しました。家族が増え、さらに賑やかになりました。

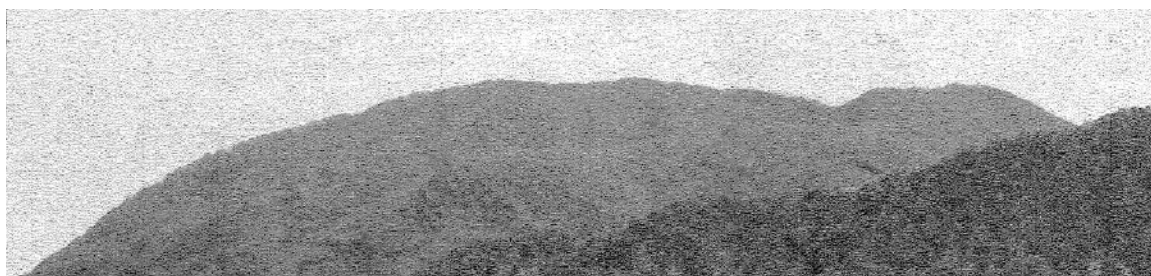
皆様のご活躍をお祈りしております。

高65(平26卒)山根一眞(益田市在住)

島根労働局の益田労働基準監督署で働いています。当日は私的な理由で参加できず、すみません。来年は参加したいと思います。

「県民の森・大万木山へいらっしゃい」

佐和田 丸(10)
(飯南町頓原出身)



写真は、森林セラピーの聖地、島根県民の森・大万木山(おおよろぎさん)で、多くのハイカーで年中賑わう。山容が仏の寝姿に見えることから、寝仏山、シャカ岳の愛称がある。

山に向かって合掌すれば、ぽっくり往生できるとの言い伝えがあり、山麓は各地からの老若男女で賑わう。

好眺望の駐車地は、飯南町の道の駅とんばら、大しめなわ館、頓原ラムネ銀泉、JAエルシー他とあちこちにある。

また、愛称・「日本海・草峠」(R 54 頓原・松江道高野ICからいずれも車で約15分の中間点一帯)は、新緑・紅葉、日本海・中国山脈が見える眺望絶佳の地となっていて、高野IC→草峠→頓原間は天然のスカイラインとなっている。

このほど、この大万木山に1時間で登れる大階段コースが誕生した。アクセスは、国道54号線頓原または松江道高野ICから草峠を経由して約20分で大階段下駐車場(標高1,000m)。ここからわずか200m約1時間登れば頂上である。大階段が304階段あることにちなみ、悩み“去れよ”コースの愛称があり、悩みを持つ方々の人気コースとなっている。

登山後は、道の駅頓原にある、飯南町大しめなわ創作館を訪ねるとよい。世界に一つだけのしめ縄を作って自宅に飾れば、このうえない記念になるでしょう。

出雲大社神楽殿の大しめ縄はここでつくられた。その制作工程は、拙稿「出雲大社神楽殿の大しめ縄6年ぶりの掛け替え」(2018近畿双松会会報P 74、同ホームページweb版)をご覧ください。

今、空母にするとかしないとか話題の「いずも」の艦内にも当館でつくられたしめ縄が飾られ、世界中を航海している。

佐和田登記測量事務所(松江市)顧問
島根県PR大使・遣島使 松江観光大使

佐和田 丸(10期)

〒573-1182 枚方市御殿山町 11-33-610

電話・Fax 072-848-7417

e-mail malu122@nifty.com

HP <http://simane.do47.net/kadoya.html>

都道府県対抗駅伝を応援して
「松江にもっと頑張って欲しいなあ」

松本耕司(16)



1月12日には京都で女子の、19日には広島で男子の都道府県対抗駅伝が行われた。中学生も走り、ふるさと選手も走るという47都道府県の「総合体力検査」のような例の駅伝である。

わが島根は、昨年は男子40位、女子が最下位の47位と、特に女子の結果は大変気になっていた。今年は、男子は43位と順位を三つ下げたが、女子は45位と最下位を脱出してホッとひと息をついた。なんにしても最下位というのは気持ちの落ち着かないことだから。

実は、私は北高でも大学でも陸上部だったことから、今までも北高や松江の中学生が走る時には京都まで応援に出かけていたが、今年もお誘いもあって出かけてみた。青森、沖縄を抜いての45位という結果に京都島根県人会を中心とする応援団は大喜びで、中・高生たちが一生懸命頑張っている姿には大いに感動した。テレビ観戦とは大違いの迫力と、女子らしい華やかさもあり、応援に出かけてよかったなと心底思った。

ところで、今回の女子チームの陣容を見ると、13名の選手団のうち、石見から2名、隠岐から1名で、残りの10名は出雲市域からの中・高校生と大学生と社会人で、島根県チームというよりは出雲市チームと言ってもいい状況であった。松江市域からの中・高生は毎年1人はいたと思うけど今年はいなかった。この傾向は男子チームもほぼ一緒のようである。

要は、今年は松江市域に有力な中・高生選手がいなかったのだろうなと想像しながら、いろいろ聞いてみると、松江は「球技」は盛んだけれどもとか、陸

上部がなくなっていく学校も多いとか聞いた。そう言えば北高も昔から長距離の選手は少なかったことも思い出した。さらに、出雲市域には中学校に熱心な先生がいらっしゃるらしいことも。

松江は確かに環境的にも地形的にも子供の頃から長距離に親しむという下地は弱いだろうし、長距離を走るのを見るからに苦しそうだから子供の気持ちに向かわないこともそうだろうなと思う。加えて人口減や子供の減、また指導の問題もあって、長距離の選手が育ちにくいという問題が松江を襲っているらしいことがおぼろげながらうかがえた。

では、「あきらめるか」と言えば、やはりちょっと悔しい。全国46位の人口では駅伝の結果も当然と言えば当然なのだが、それにしてお隣の鳥取県が人口は最下位の47位ながら、男子は去年38位、今年18位、女子は去年45位、今年は35位と、ともに大きくジャンプアップしているのがなんとも気にはなる。鳥取には、やはり長年の何かの努力の成果があがったに違いない。

新年早々、テレビの全国放送でのインパクトはなかなかのものがあることは分かっているので、私も思わず監督に、「島根にも松江にも長距離は弱くていい、駅伝は負けてもいいと思っている人はいない」はずだから、いろいろ皆さんと相談しながら頑張ってくださいと、無神経な注文をつけてしまった。

おそらく、そのためには出雲市域の方々だけにご苦勞をさせないで、島根県全体としての取り組み、とりわけ最大人口を有する松江市域の参加や協力

がなければ、なかなか成果はあがらないだろうなということ容易に想像できる。

現場を見て、選手たちの真剣さに心を打たれながらも、もう少し上位でゴールできれば、走った選手や関係者の喜びも達成感も、また県民の元気も倍増、三倍増するのになあ、折角の機会を勿体ないなあ、などと考えながら会場を後にした。

はて？この思いを松江の誰に伝えたらいいのやらと思いつつ・・・。



ところで、この話には後日談があって、親しくしている陸上競技経験者（先輩）に話したら、強いチームをつくるには、良き指導者や人材確保の仕組みづくりが必要で、それには人、物、金が投入されなければならないが、そう思うなら、本気で県知事や松江市長に自分で働きかけなさい、と言われた。ムムッ、言うは易くなのだが・・・。

また、別の方（後輩）からは、今、頑張っている指導者や選手たちの苦労は並大抵なものではないから、その人たちのことをよく理解しないとイケませんね、とも言われた。

いずれもご尤もなご意見で、私も「今の松江がどういう状況なのかがわかるまでは、軽々な発言は控えよう」、「次に松江に帰った時に、昔の陸上仲間たちに聞いてみてからゆっくり考えよう」と思った次第であった。

いつもであれば、このあたりで、後は日常に取りまぎれて忘れてしまうのだが、その後すぐに島根陸

上競技協会から先般の応援への御礼の手紙をいただき、そこには「全国大会のレベルを痛感した。島根も中・高生を育てて早く全国の進歩に追いつきたい」とあった。私も、流れとは不思議なものだなと感じ、また「我が意を得たり」の思いもあって、「テレビの前で応援している全国の島根県出身者も同じ希望を持っているだろうから、頑張っ欲しい」と、返事を書いてしまった。そして、思わず「今の松江はどうなっていますか？」と質問もしてしまった。松江出身者として何か応援できることがあればと思っているなどと、調子のいいことも書いてしまった。

ご返事をいただけるかどうかはわからないが、北高で陸上部のメシを食った身としては松江の状況は大変気になり、大会から二ヶ月経っても、“松江が挙げてもっと頑張らなければ”という思いに変わりはない自分がいることにも気づいている。

個人として何ができるかは極めて疑問だが、ご返事があってもなくても一生懸命考えてみたいと思っている次第である。

そこで、この会報にも投稿させていただき、皆さんにもお願いすることを考えた。

松江にお帰りになった時の知人友人との会話の際には、「松江にもっと頑張っ欲しいなあ」ということも言ってみていただけないかと。

迂遠のようだが、それがやがて松江の中で「自分たちが頑張らなければ」という静かな世論になれば、きっといい結果が生まれてくるような予感がしている。

皆さん、お忘れでなければ、どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

編 集 後 記

この会報の編集を始めた時には、“武漢”とか“ダイヤモンド・プリンセス”という言葉が日々飛び交いながらも、どこか違う世界のこのように思っていました。編集を終える頃となった今や、ついにこの「新型コロナウイルス」問題は“オリンピック”が開催できるのか？というところにまで来てしまいました。会報の編集作業はこの一年、お互いが元気に親睦を深めたことを確認する作業でもあります。この1～2ヶ月の激しい変化には驚くばかりです。

私も今まではまったく関心のなかった「手洗いやうがい」を一生ぶんはしているように思いますが、日本人の真面目さ、勤勉さや叡智を信じて、感染者数の折れ線グラフが明日からこそ下がって日本中に元気が戻りますことを、また私達のささやかな近畿双松会でも落語鑑賞会こそ中止にしましたが、次の文楽鑑賞会は予定どおり開催できますことを祈るばかりです。

この会報は4月中旬にはお届けできると思いますが、その頃には収束の道筋も見えておりますよう、島根の感染者「ゼロ」もいつまでも続きますよう、また、何よりも皆様にはご注意、ご自愛をいただきましてお変わりなくお過ごしください。そして、この会報が皆様の“元気”に少しでもお役に立てますよう、心から願いながら編集を終わらせていただきます。

私も明日から春の彼岸墓参のため帰松しますが、大社さんまでは行けないにしても、大国主命を祀る村の氏神さんに、日本へのご加護をお願いしてまいります。

2020.3.19 松本耕司（16期、会長）

この会報を入手ご希望の場合、またご質問については下記までご連絡ください。

近畿双松会専用アドレス；master@kinki-soushoukai.org

近 畿 双 松 会 報 2019 (平成31・令和元) 年度版 通巻 61 号

発行日／令和2年4月10日
編集兼発行者／近畿双松会
発行所／近畿双松会事務局
所在地／〒550-0002
大阪市西区江戸堀 1-21-35
㈱トーヨーコーポレーション内
TEL 06-6443-2062
FAX 06-6443-9736
郵便振替口座／00910-0-103665
近畿双松会